

都市計画道路博多駅築港線関係
埋蔵文化財調査報告 I

博 多

福岡市埋蔵文化財調査報告書第183集

1988

福岡市教育委員会

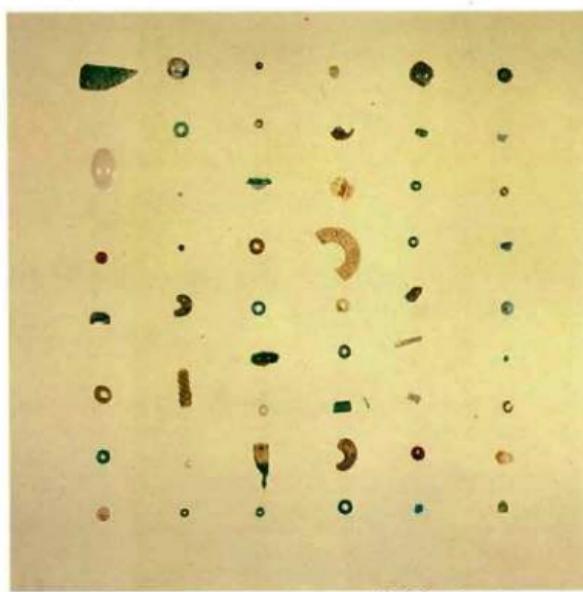
都市計画道路博多駅築港線関係
埋蔵文化財調査報告 I

博 多

福岡市埋蔵文化財調査報告書第183集

1988

福岡市教育委員会



新港線 1 次調査出土玉類

1341	1429	1440	1449	1458	1467
1420	↓				
1422	1432				
1423	1436				
1425	↓				
1426	1439	1448	1457	1466	1475
1428					



188
132 177(一括)
a 118



b

2. 染付

1. 赤絵、青釉



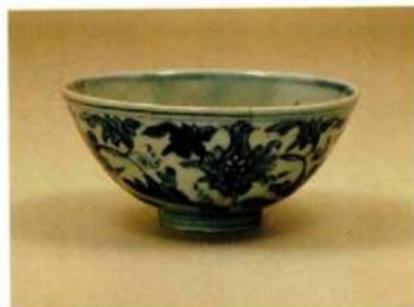
a



b

114 115 109
111 110 113
112 118 116

51号土塙出土遺物(2)



3. 染付



4. 染付

119 129



127 125 126



128 124



表土検出遺構出土遺物



1518 1519
1517 1522



1. 染付



a

b

1516 1526
1521 1524
1515

2. 染付、赤絵



1、13号井戸出土遺物

775 777 778



778



763
782 814 774



770 768 769

933
931



2. 21号井戸出土遺物

1058 1063
1053 1054
1055



3. 39号井戸出土遺物

序

福岡市教育委員会では、都市計画道路博多駅・築港線の拡幅工事に伴う博多遺跡群の発掘調査を、昭和57年から昭和62年にかけて行なって参りました。本書は昭和57年度に行なった第1次調査の報告書です。

博多は古代・中世を通じて日本における対外交渉の窓口として特異な発展をとげて参りました。このことは博多遺跡群から出土する多種多様の貿易陶磁が博多の港湾都市としての性格を雄弁に物語っています。

この報告書が埋蔵文化財への認識を深めていただく一助となり、また学術研究資料として活用していただければ幸甚に思います。

発掘調査から資料整理に至るまで指導委員の先生方はじめ土木局街路課関係者など多くの方々のご協力に対し深甚の敬意を表します。

昭和63年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 佐藤 善郎

例　　言

1. 本書は福岡市博多区上呉服町における都市計画道路博多駅築港線の拡幅にともない、福岡市教育委員会が土木局の委託を受け、昭和57年度に実施した第1次調査の報告書である。
2. 今回の報告書では都合上、主要な遺構とその出土遺物を中心に概要を述べざるを得なかつた。割愛した遺構、遺物については追って報告したい。
3. 本書に使用した遺構図の作製には、塩屋勝利、池崎謙二、下村智、常松幹雄、木村幾太郎らがあたり、製図は池崎が行った。
4. 遺物の実測図作製と製図には、森本朝子、仲道美津代、田崎真理、中野純江、入江のり子、撫養久美子によるところが多い。
5. 本書に使用した写真は、現場関係を塩屋、池崎、白石公高が、遺物関係を白石彰、井上靖崇の助力を得て白石が撮影したものである。
6. 遺物の整理には、木村厚子、山田由美子、有島美江、撫養久美子、能美須賀子、古谷宏子、萩尾朱美、久保田慶子、西嶋南沙子、伊崎マサ子、佐々野彰子、日高さゆり、森福ひでみ、高原由紀、橋崎多佳子に負うところが大きい。
7. 本書の執筆と編集は、塩屋と協議の上、池崎が行った。
8. 本書に用いた陶磁器の分類は、明代の染付に関して「15~16世紀の染付碗、皿の分類と年代」小野正敏 1982『貿易陶磁研究No.2』所収を使用させていただいた。他は全て「博多出土貿易陶磁器分類表」、福岡市埋蔵文化財調査報告書第105集別冊 1984に掲る。
9. 本書で用いた遺物番号は福岡市埋蔵文化センターの収藏要項に基く個体番号である。

本文目次

1.はじめに.....	2
2.発掘調査の概要.....	5
3.おわりに.....	54

挿図目次

Fig. 1 調査区位置図.....	3
Fig. 2 グリッド設定図.....	4
Fig. 3 遺構全体図 1面.....	折込
Fig. 4 遺構全体図 2面.....	折込
Fig. 5 遺構全体図 3面.....	折込
Fig. 6 遺構全体図 4面.....	折込
Fig. 7 遺構全体図 5面.....	折込
Fig. 8 遺構全体図 6面.....	折込
Fig. 9 H区南壁、東壁土層断面図 (1/60)	折込
Fig. 10 F・G区東壁土層断面図.....	折込
Fig. 11 G区南壁土層断面図とF・G区西壁土層断面図 (1/60)	折込
Fig. 12 4号石組遺構.....	6
Fig. 13 4号石組遺構出土遺物 (1).....	7
Fig. 14 4号石組遺構出土遺物 (2).....	8
Fig. 15 4号石組遺構出土遺物 (3).....	9
Fig. 16 4号石組遺構出土遺物(4)と5号石組遺構出土遺物.....	10
Fig. 17 5号石組遺構.....	折込
Fig. 18 1号道路.....	折込
Fig. 19 1号道路出土遺物 (1).....	11
Fig. 20 1号道路出土遺物 (2).....	12
Fig. 21 1号道路出土遺物 (3).....	13

Fig.	22	13号井戸出土遺物 (1).....	14
Fig.	23	13号井戸出土遺物 (2).....	15
Fig.	24	21号井戸・38号土壤.....	16
Fig.	25	21号井戸出土遺物 (1).....	17
Fig.	26	21号井戸出土遺物 (2).....	18
Fig.	27	21号井戸出土遺物 (3).....	19
Fig.	28	21号井戸出土遺物 (4).....	20
Fig.	29	21号井戸出土遺物 (5).....	21
Fig.	30	38号土壤出土遺物.....	22
Fig.	31	39号井戸出土遺物 (1).....	23
Fig.	32	39号井戸出土遺物 (2).....	24
Fig.	33	39号井戸出土遺物 (3).....	25
Fig.	34	3・6・8・17・25号土壤.....	26
Fig.	35	51号土壤.....	27
Fig.	36	51号土壤出土遺物 (1).....	28
Fig.	37	51号土壤出土遺物 (2).....	29
Fig.	38	51号土壤出土遺物 (3).....	30
Fig.	39	51号土壤出土遺物 (4).....	31
Fig.	40	51号土壤出土遺物(5)と54・56・66号土壤出土遺物.....	32
Fig.	41	53・54・56・66号土壤.....	33
Fig.	42	57号土壤.....	34
Fig.	43	57号土壤出土遺物 (1).....	35
Fig.	44	57号土壤出土遺物 (2).....	36
Fig.	45	75・106・111号土壤.....	37
Fig.	46	125・151・154・169号土壤.....	38
Fig.	47	106・125・154号土壤出土遺物.....	39
Fig.	48	27号井戸・1号集骨遺構.....	40
Fig.	49	表土中検出遺構一括遺物 (1).....	41
Fig.	50	表土中検出遺構一括遺物 (2).....	42
Fig.	51	包含層・表土出土遺物.....	43

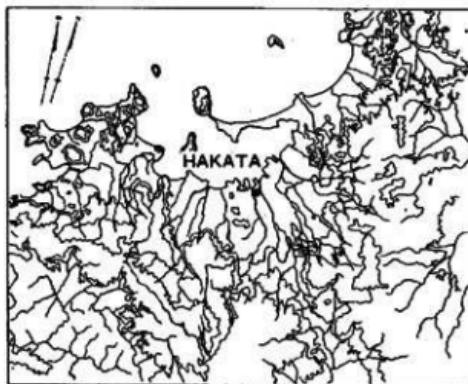
写真図版目次

- 巻頭図版 1 築港線1次調査出土玉類
巻頭図版 2 51号土壙出土遺物(1)
巻頭図版 3 51号土壙出土遺物(2)
巻頭図版 4 表土検出遺構出土遺物
巻頭図版 5 13号井戸・21号井戸・39号井戸出土遺物
PL. 1 博多遺跡群周辺航空写真
PL. 2-1 築港線1次調査区調査前(西より)
2 築港線1次調査区全景
PL. 3-1 築港線1次調査区調査前(西より)
2 築港線1次調査区表土剥ぎ(西より)
PL. 4-1 F・G区調査風景
2 F・G区調査風景
PL. 5-1 F・G調査風景(北西より)
2 F・G調査風景(北西より)
PL. 6-1 H区遺構最下面全景(南西より)
2 H区遺構最下面全景(北西より)
PL. 7-1 F・G遺構全景(北西より)
2 F・G区遺構最下面全景(北西より)
PL. 8-1 H区南壁上部道路遺構土層断面(北東より)
2 H区南壁上部道路遺構土層堆積状況(北西より)
3 H区南壁上部道路遺構土層堆積状況(北西より)
PL. 9-1 H区土層堆積状況(北より)
2 F区東壁土層断面(南西より)
PL. 10-1 G区東壁土層断面(南西より)
2 G区東壁土層断面(南西より)
PL. 11-1 1号道路遺構全景(北より)
2 1号道路遺構舗装道路面部分(北西より)
PL. 12-1 1号道路遺構全景(南西より)
2 1号道路遺構全景(南西より)
PL. 13-1 57号土壙と4号石組遺構(南西より)
2 57号土壙と4号石組遺構(北西より)

- PL. 14-1 4号石組遺構五輪塔出土状況（南東より）
2 5号石組遺構（南東より）
- PL. 15-1 5号石組遺構（北東より）
2 5号石組遺構（西より）
- PL. 16-1 2号土壤（北東より）
2 4号土壤（北西より）
- PL. 17-1 9号土壤（西より）
2 17号土壤（東より）
- PL. 18-1 53号土壤（北東より）
2 74号土壤・75号土壤（南東より）
- PL. 19-1 80号土壤（南東より）
2 151号土壤（東より）
- PL. 20-1 51号土壤検出状況（西より）
2 51号土壤遺物出土状況（北西より）
- PL. 21-1 57号土壤「天文廿二」銘墓石出土状況（北西より）
2 57号土壤上面遺物出土状況（北西より）
- PL. 22-1 57号土壤上面遺物出土状況（西より）
2 57号土壤下面（北西より）
- PL. 23-1 105号土壤（南東より）
2 109号土壤（西より）
- PL. 24-1 123号土壤粘土貼り状況（北西より）
2 123号土壤粘土除去後（南より）
- PL. 25-1 6号井戸・9号井戸・13号井戸切り合い状況（北東より）
2 13号井戸井筒内遺物出土状況（北東より）
3 13号井戸完掘後（南東より）
- PL. 26-1 21号井戸・38号土壤遺物出土状況（北より）
2 21号井戸完掘状況（北より）
- PL. 27-1 21号井戸・38号・39号土壤遠景（北より）
2 21号井戸黄釉鉄絵龍文盤出土状況
3 38号土壤遺物出土状況（南西より）
- PL. 28-1 21号井戸検出状況（南東より）
2 21号井戸完掘後（南西より）
- PL. 29-1 47号井戸（南西より）

- PL. 29-2 48号井戸全景（東より）
3 48号井戸遺物出土状況（東より）
- PL. 30-1 1号集骨遺構全景（西より）
2 1号集骨遺構 イルカ頭骨出土状況（西より）

築港線 1 次調査概要



遺跡略号 H K T R-1

遺跡調査番号 8224

1. はじめに

調査の経過

古代から中世にかけて、博多の国際都市としての性格は変わることなく持続し、その重要性については先駆者が多く分野で指摘し、また研究されてきたところであり、考古学の分野でも偶然の機会に出土した遺物に関して研究がなされてきた。しかし、本格的な発掘調査は一帯が住宅密集地という制約もあって全く行なわれていなかった。そのため、博多の遺跡としての評価は漠然としたものであった。博多における本格的な発掘調査は、昭和52年12月に開始した地下鉄1号線店屋町工区の調査が嚆矢となった。その結果、予想をはるかにしのぐ多量の遺物遺構が検出され、とりわけ多種多様の貿易陶磁の出土したことは、博多の古代・中世の日本における海外交渉の門戸としての性格を見事に代弁しているものとして注目された。このことから、福岡市教育委員会では博多の遺跡範囲を地形とともに推定し、ここを「博多遺跡群」と呼び、以後各種開発の事前調査を行なってきた。地下鉄工事の進行とともに、道路の拡幅も行政の緊急課題であった。都市計画道路博多駅築港線の拡幅工事のための用地買収もかどって、昭和57年土木局街路課と教育委員会文化課（当時）と協議し、昭和57年度の都市計画局の令達事業として1次調査を行なうこととした。以後用地買収の進行状況によって一定面積が確保されて後発掘調査を行なうこととし、最終的には昭和61年度の第5次調査をもって完了した。

第1次調査区は、福岡市博多区上呉服町地内に位置しており、遺跡略号 HKT-R-1 調査番号 8224 とする。調査面積は約630m²、調査時間は昭和57年11月15日から昭和58年3月31日までであった。調査の組織（当時）は次のとおりである。

調査委託 土木局街路課

調査主体 福岡市教育委員会

教育長 西津 茂美

文化部長 志鶴 幸弘

文化課長 井上 剛紀

庶務担当 三宅 安吉（埋蔵文化財第1係長）古藤 国生

調査担当 柳田 純孝（埋蔵文化財第2係長）塙屋 勝利 池崎 謙二

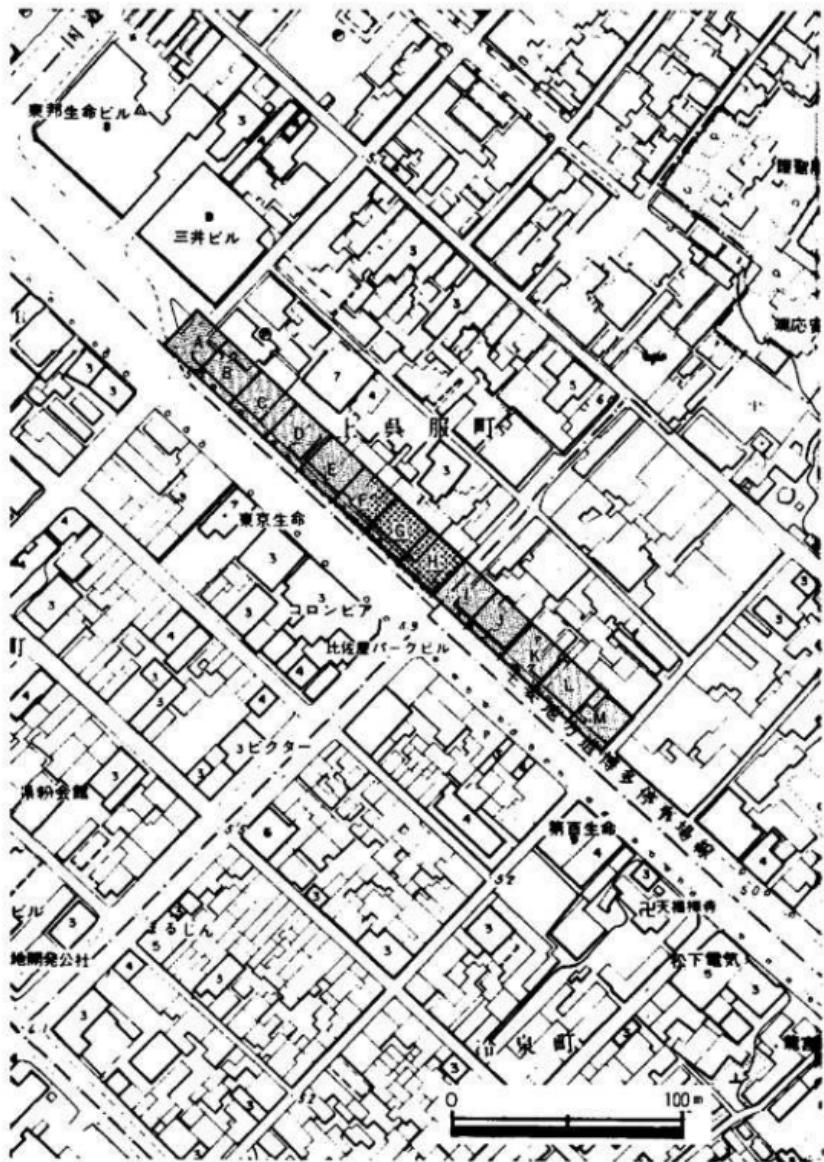


Fig. 1 調査区位置図(1/2,500)

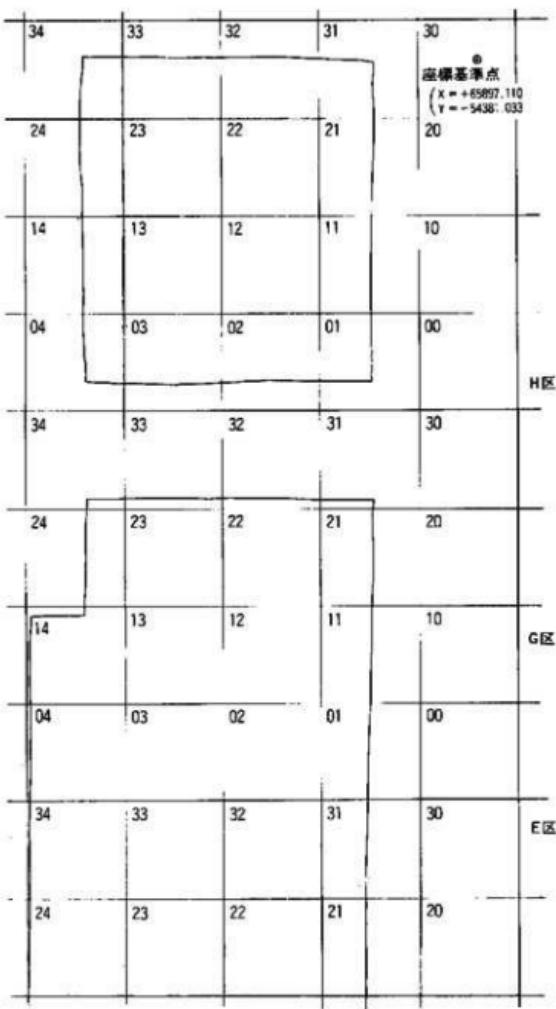


Fig. 2 グリッド設定図(1/300)

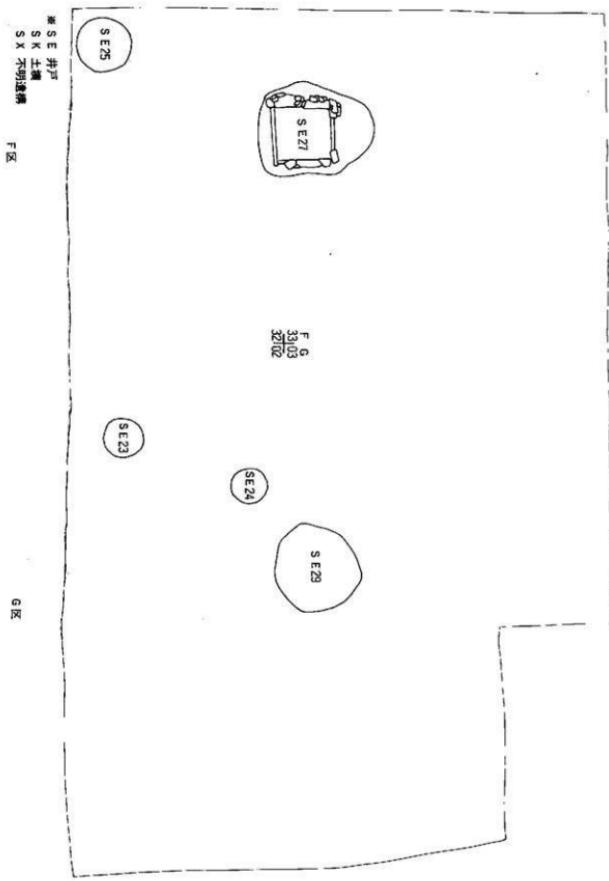
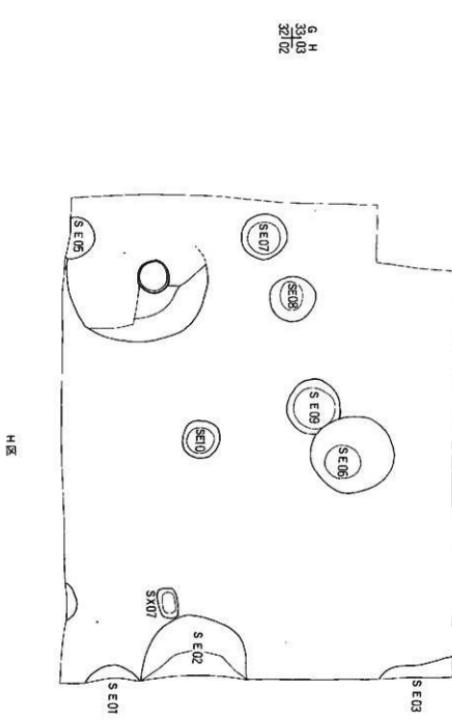


Fig. 3 遺構全図 第1面



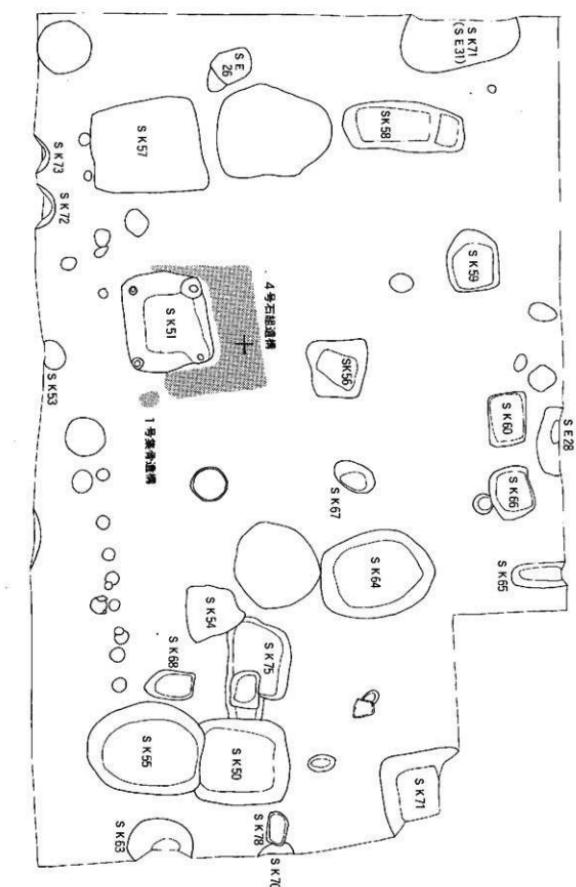
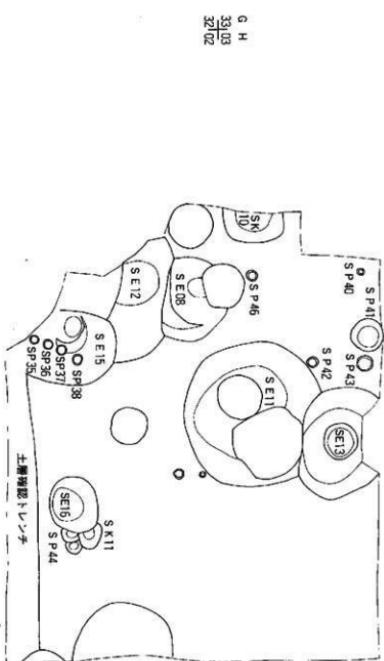


Fig. 4 連続全体図 第2面



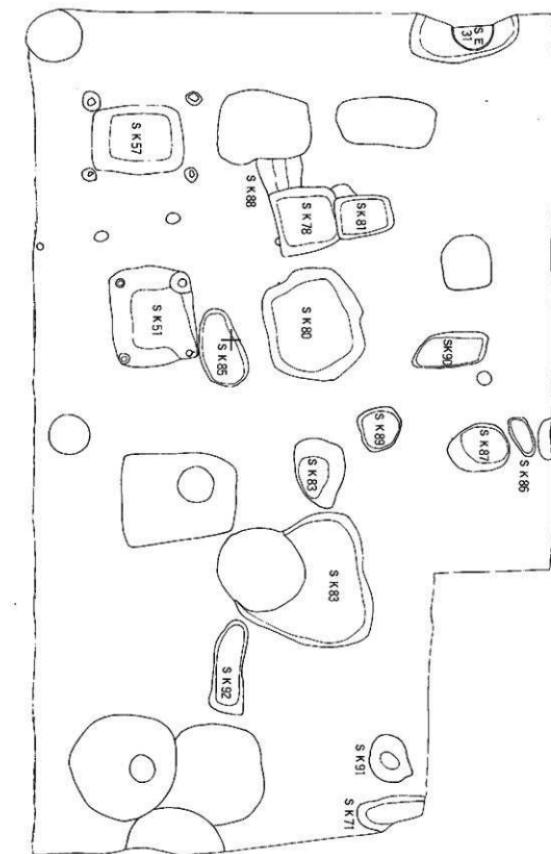
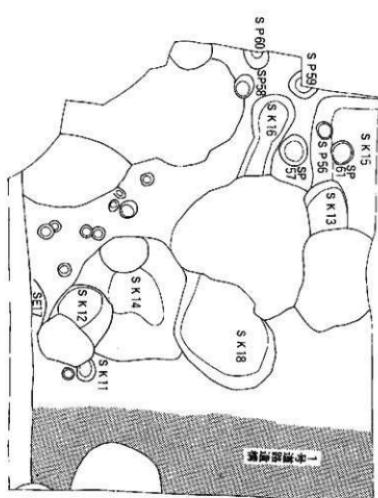
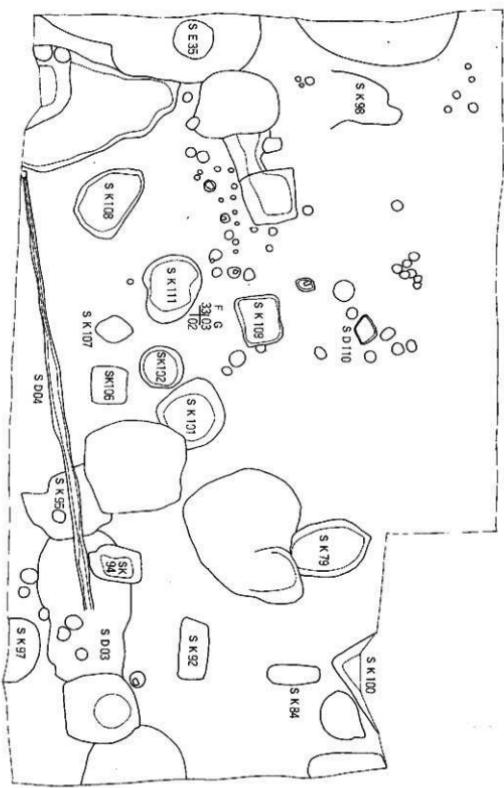


FIG. 5 遺構全図 第3面

G H
33.03
23.02



F区

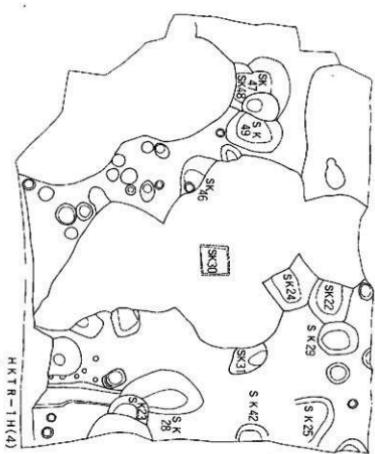


G区

Fig. 6 麻将室休息 第4图

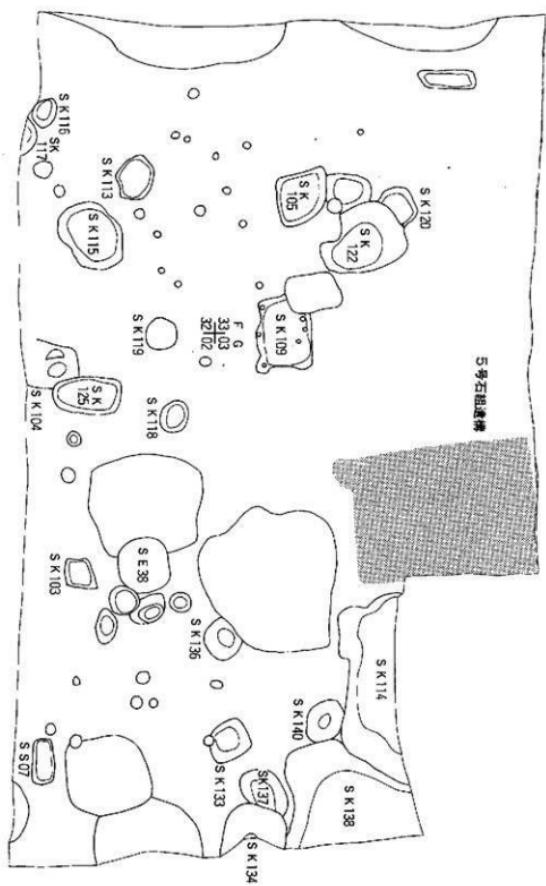
G F
33
32
31
30
29
28
27
26
25
24
23
22
21
20

H区



HTR-H(4)

5号石組遺構

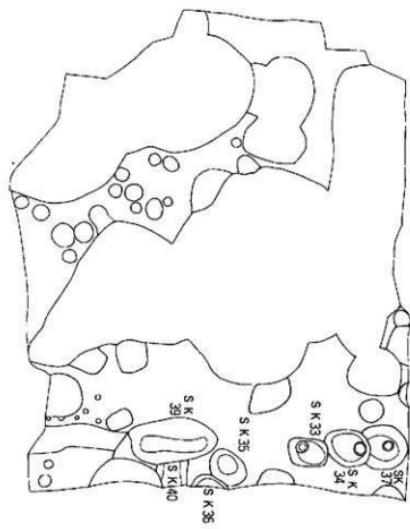


F区

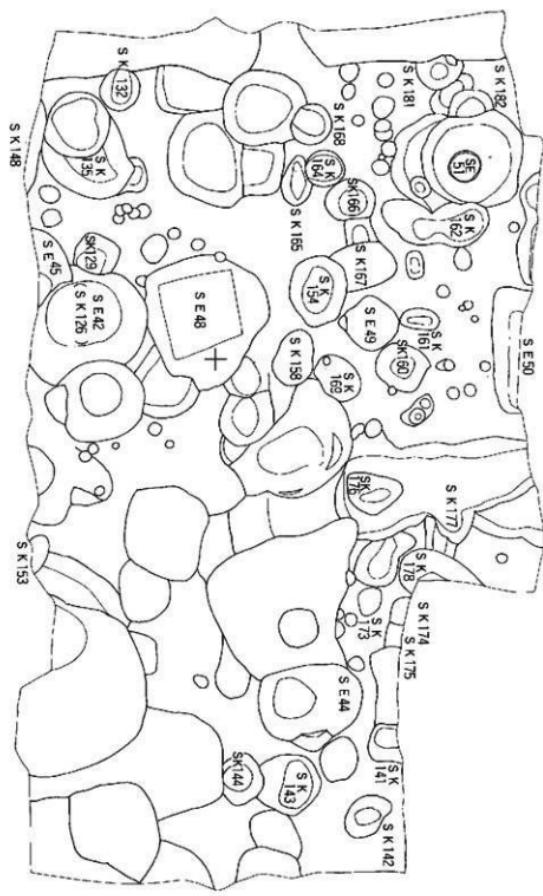
G区

Fig. 7 遺構全形図 第5面

H区



F区

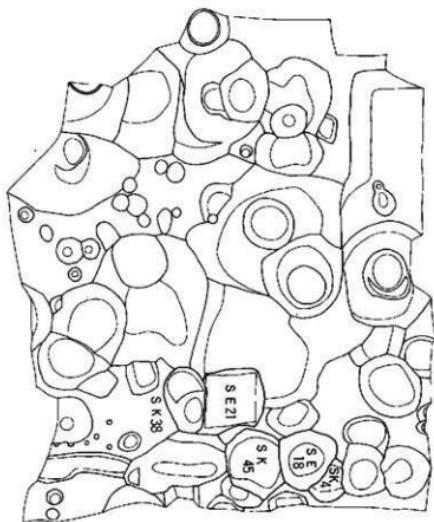


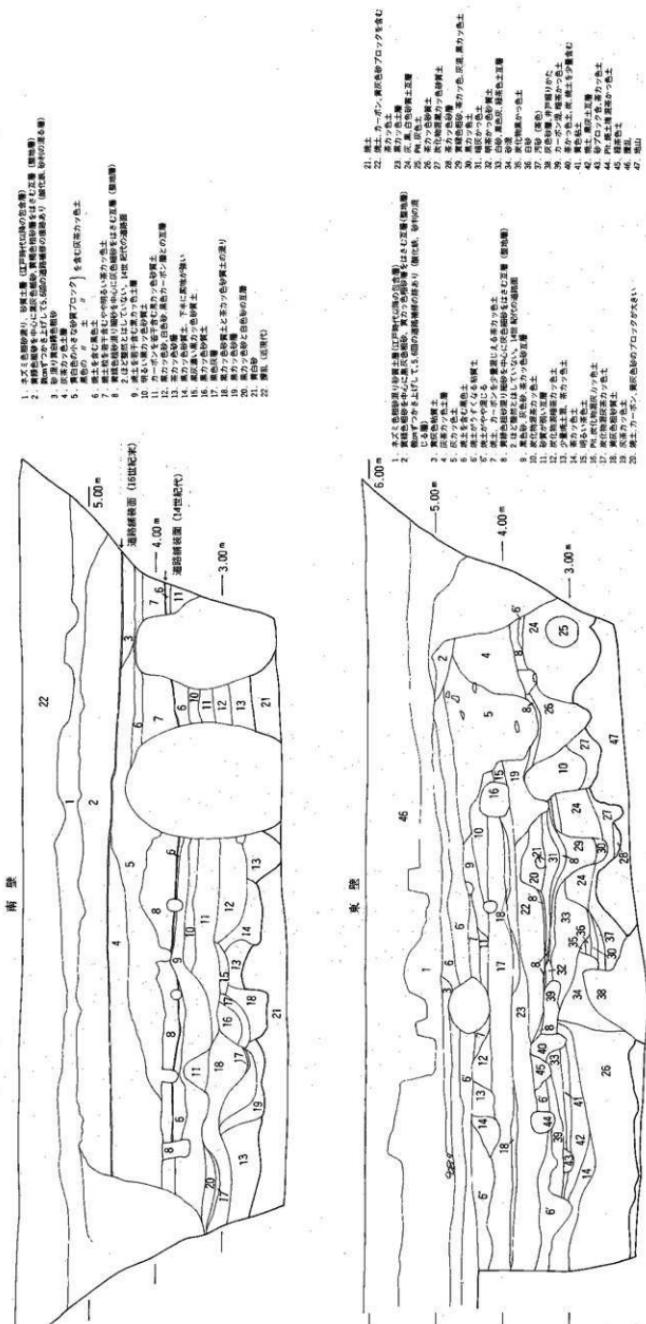
G区

G H
33 13
32 12

FIG. 8 遗传全休图 第6面

H区





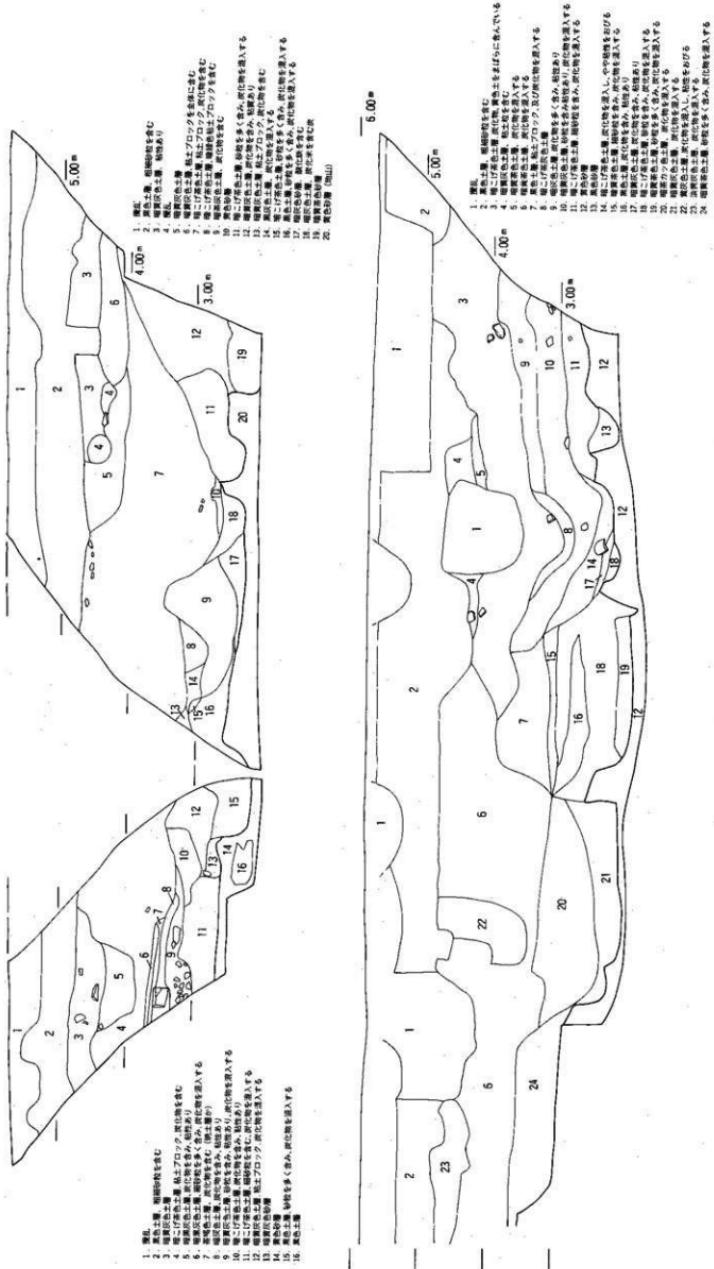


Fig. 10 F, G 地域土壤断面図(1/60)

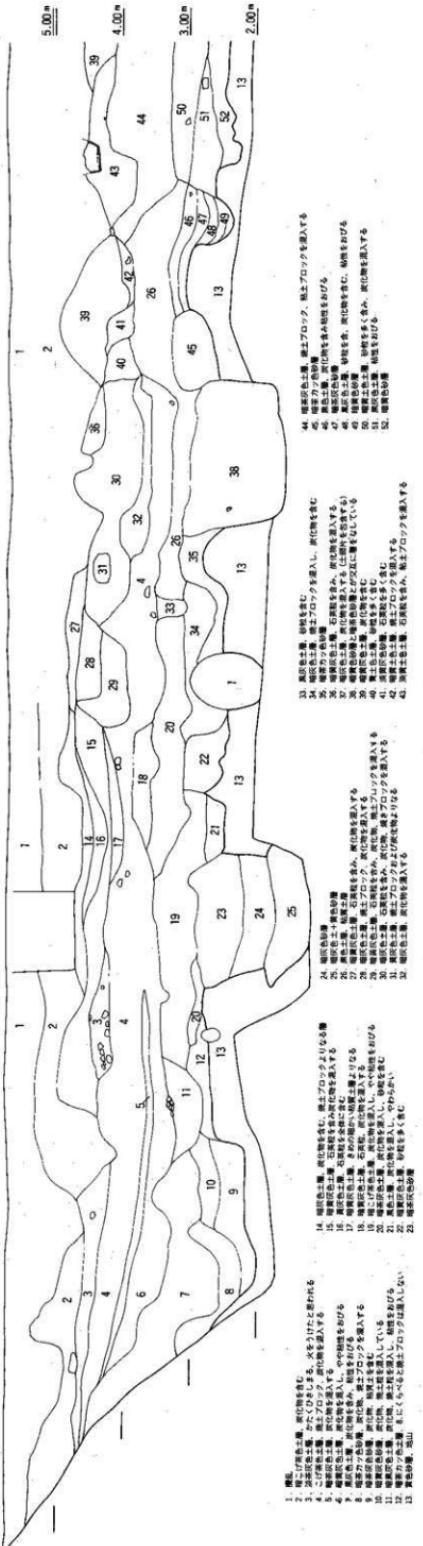
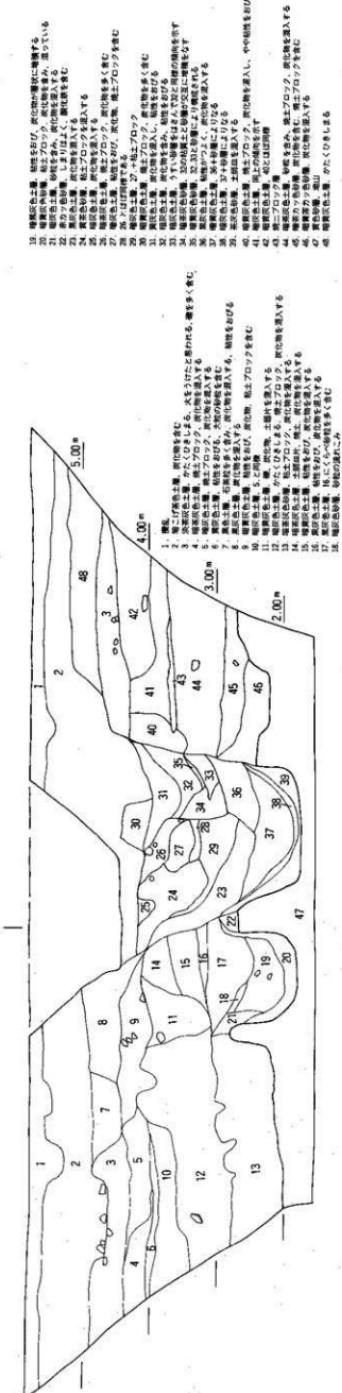


Fig. 11 G区粘土層断面図とF・G区粘土層断面図(1/50)

2. 調査の概要

昭和57年11月1日から調査区の外柵工事、プレハブ事務所の設置、表土除去等を行ない、実質的に発掘調査を開始したのは15日からであった。外柵は通行人の方々の安全管理とともに、発掘調査の様子が見学できるよう上半を金網とし、また調査内容が理解できるよう看板を設置して、随時調査速報を掲示した。表土は近現代擾乱が甚しいため、除去は機械によって行ったが、擾乱の厚さによって1.5m～2m程度をすきとった。また店舗の営業用通路確保のため、調査区を横断する形でブリッジを設けた。道路拡幅部分は幅20m弱で総延長150mに及ぶため、要調査部分については現道路に沿って20m×20mのグリッドを設け、海側から順にそれぞれA～Mの符号を付けた。第1次調査区はこのうち、F区の一部とG、H区にまたがる部分である。グリッド基準軸は磁北から41°西に偏る(Fig.1)。また各グリッドは5m毎の小グリッドに細分している(Fig.2)。調査にあたっては、遺構最下面までの深度が地表面から4m近いということから、45°近い勾配を壁面につけざるを得なかったため、下層になるにしたがって調査面積は狭くならざるを得なかった。博多遺跡群は古代から現在に至るまで都市として継続しており、常に上層からの掘り込み事業が行なわれている。中でも井戸の掘方は砂地である基盤のせいもあって崩壊しやすく、また大きな掘方を必要とするため、上層の層位的な把握を極めて困難なものにしている。今回の調査では時間的な制約もあり、一定のレベル面で遺構を検出するという方法をとった。その結果表土除去直後の面から地山の全面露出する面まで6面に分割された。しかしながらこれらの面は時代的な変遷を大まかには抑えられると考えられるが、あくまでも遺構検出面であると認識している。以下各面の概要を記す。

第1面(Fig.3) 表土擾乱層を除去した直後に検出した面で、近世以降の瓦組井戸等が見られるのみである。標高4.5m前後である。

第2面(Fig.4) 標高4.3m前後である。51号、57号土壤をはじめ、天正15(1587)年の太閤町割の前後の遺構が多い。現町筋よりわずかに西に偏る柱穴列があり、島津の博多焼打に起因すると思われる焼け落ちた壁土がかなりの遺構に見られる。

第3面(Fig.5) 標高4m前後の面である。廃棄物処理土壤かと思われる遺構が多くなる。H区ではこれよりわずかに下ったところで舗装道路遺構が検出されている。14～16世紀頃の遺構が混在する。

第4面(Fig.6) 標高3.5～4m弱の面である。廃棄物処理土壤、木桶組井戸等があり、遺構底に地山砂層の見えるものがあらわれる。14～15世紀頃の遺構が多い。

第5面(Fig.5) 標高3m強の面である。11～15世紀頃まで各時期の遺構が混在する。柱穴等を多く見られるが、土からの井戸掘方等に切られ、組織的には把握できない。

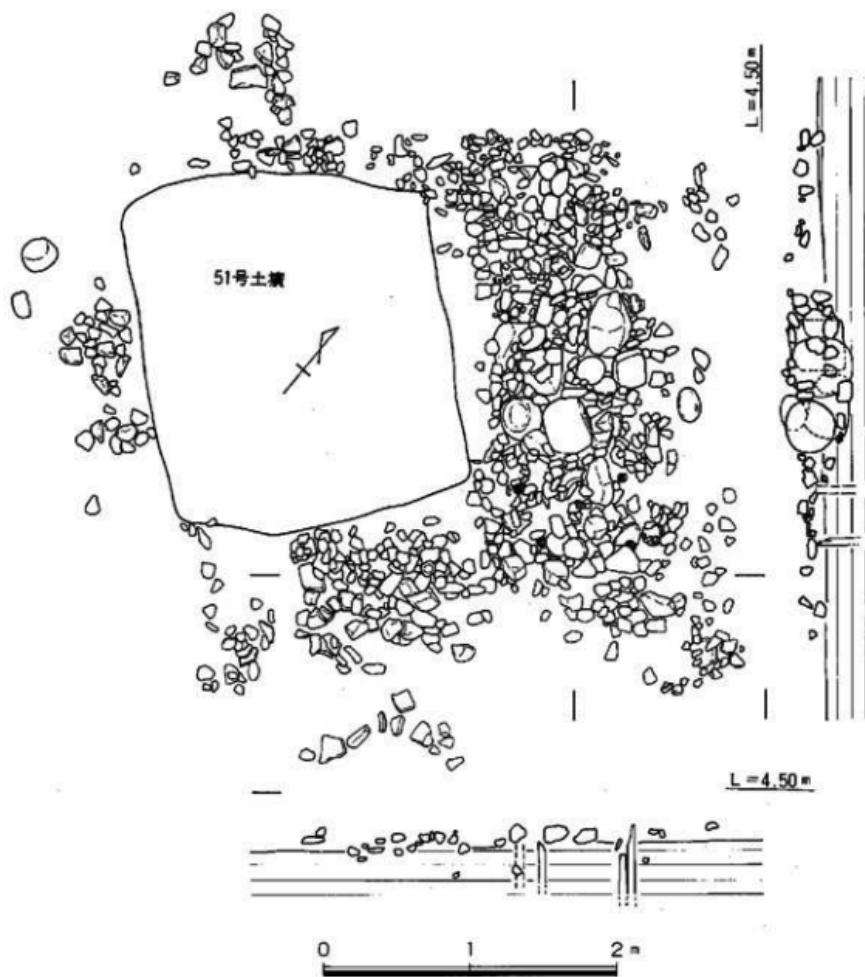


Fig. 12 4号石組造橋(1/40)

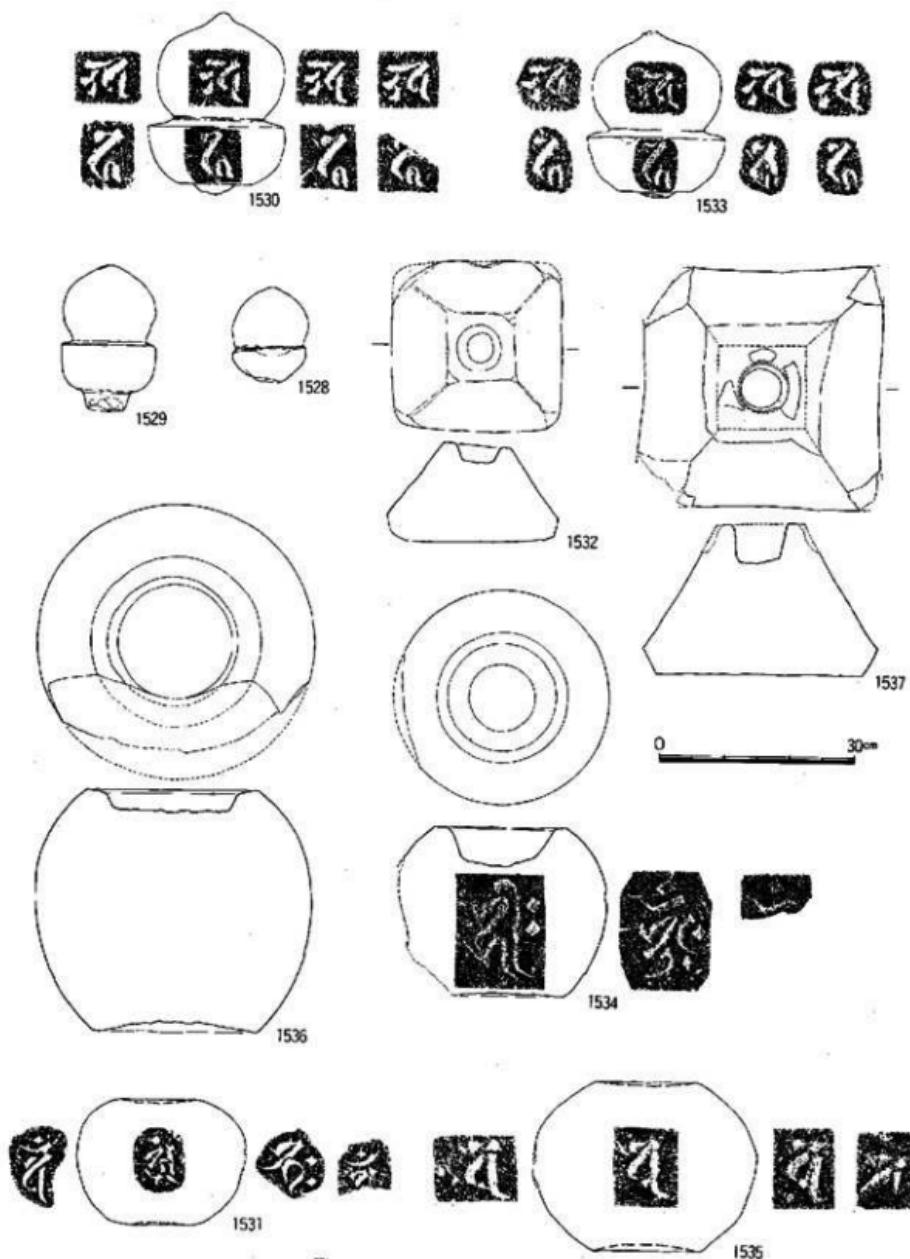


Fig. 13 4号石組遺構遺物(1)(1/10)

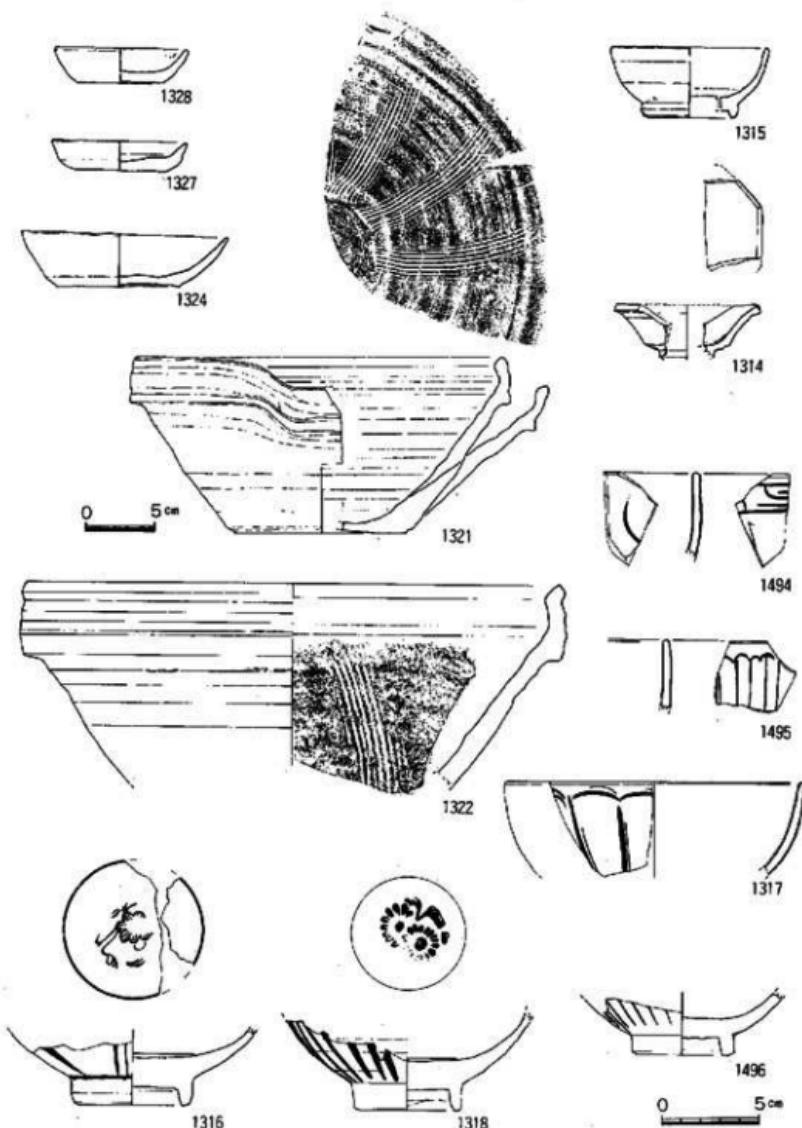


Fig. 14 4号石組遺構出土遺物(2) (1/3, 1321を除く)

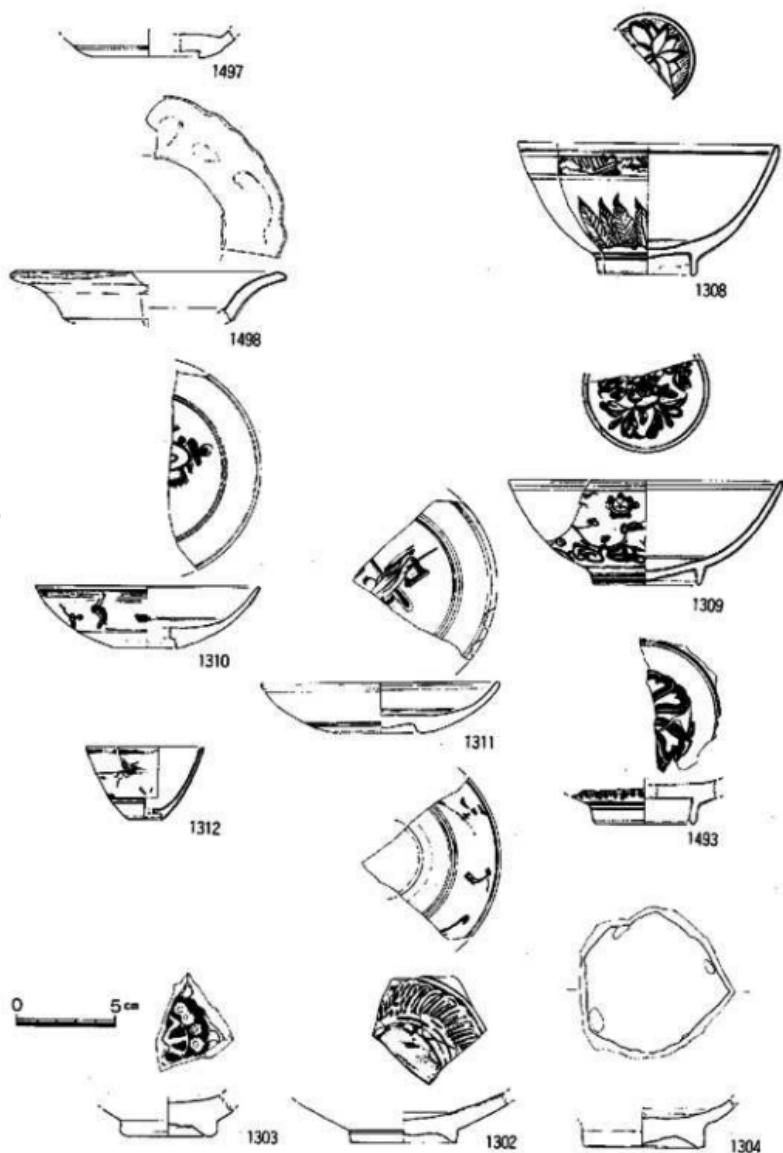


Fig. 15 4号石組遺構出土遺物(3) (1/3)

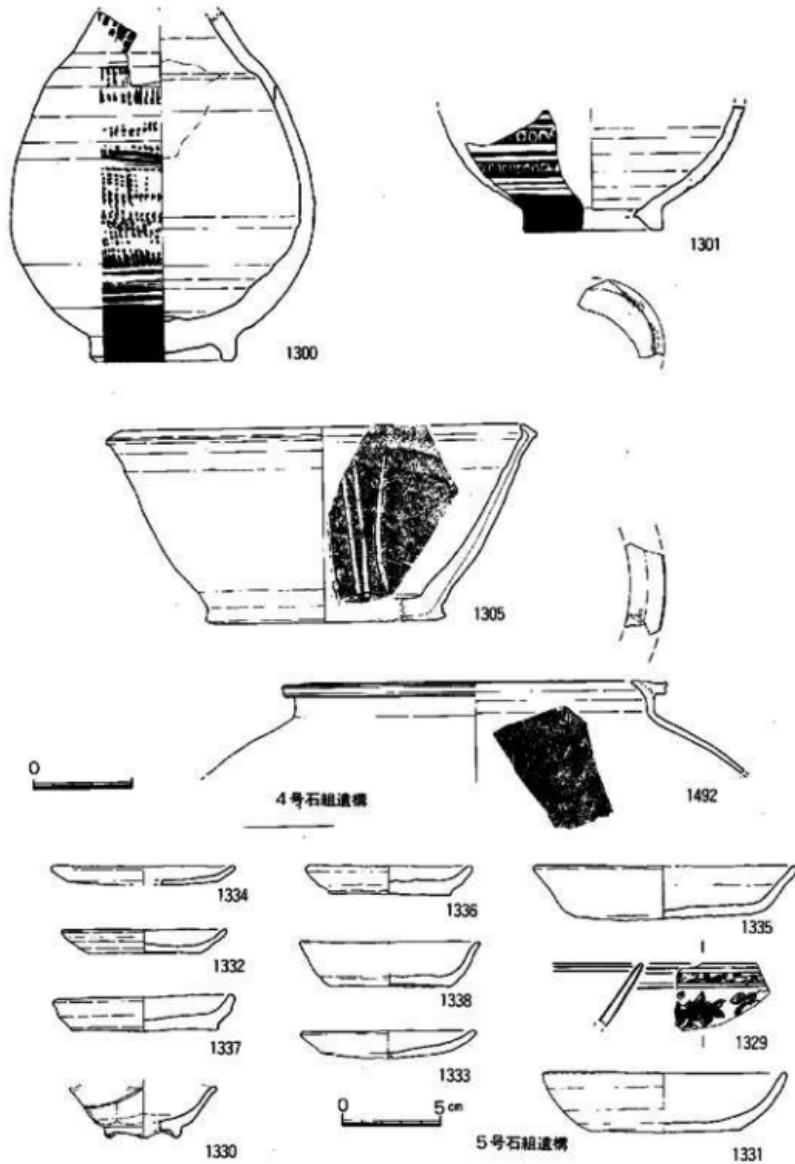


Fig. 16 4号石組遺構出土遺物(4), 5号石組遺構出土遺物(1/3)

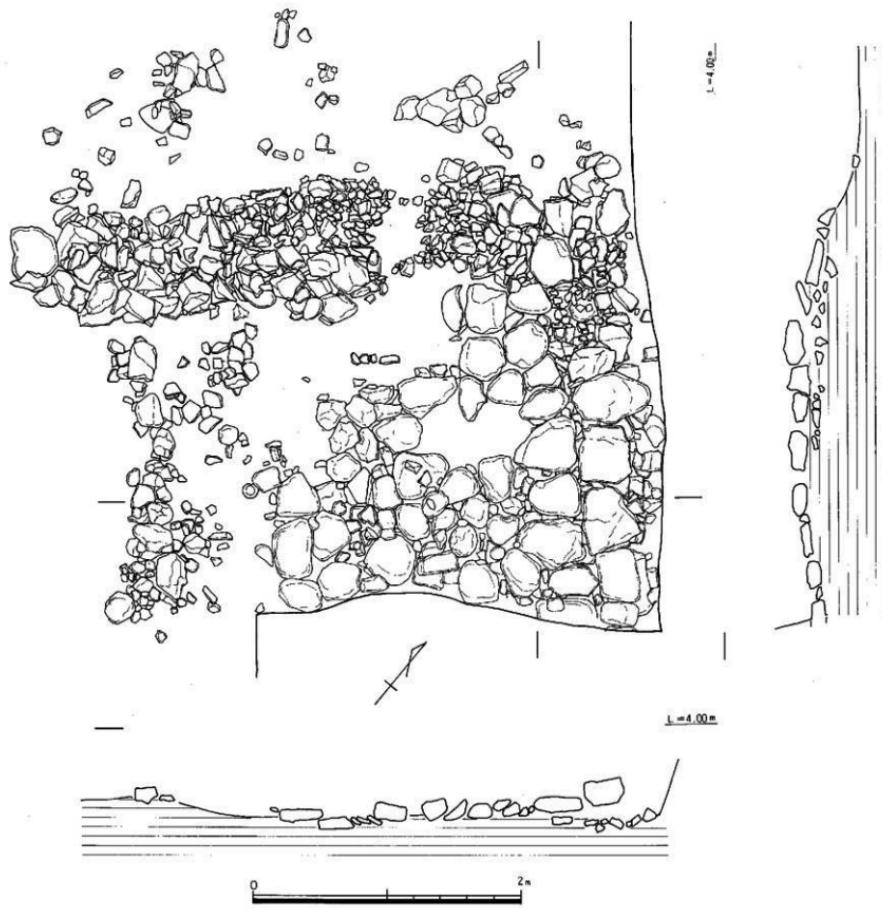


Fig. 17 5号石机遺構(1/30)

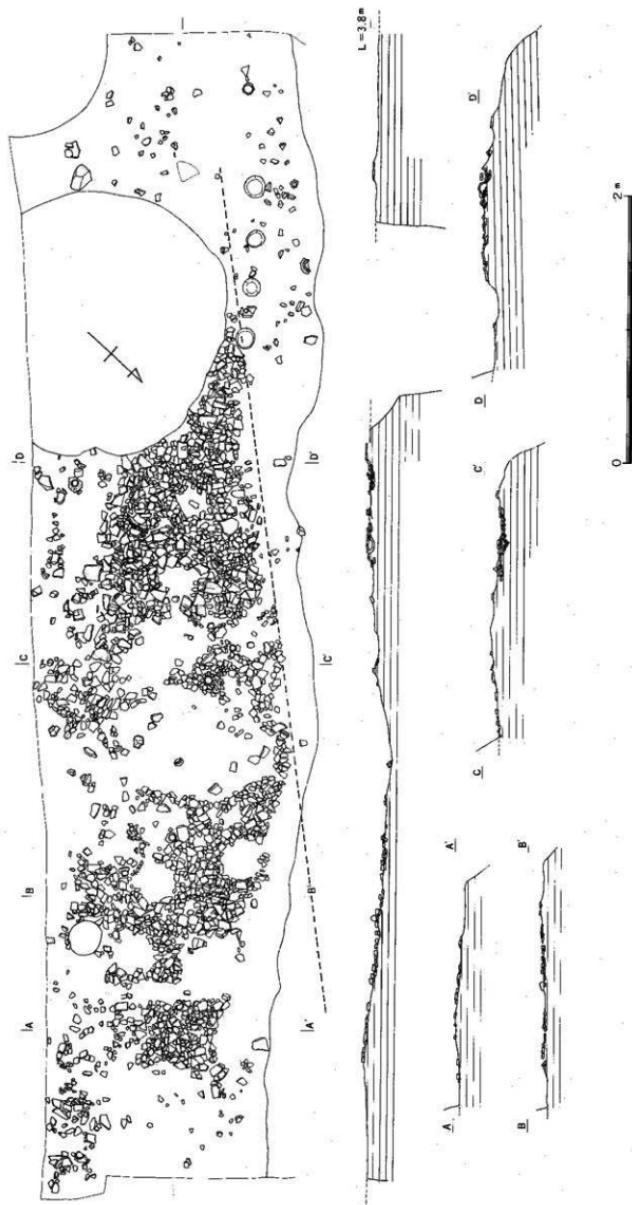


Fig. 16 1号道路断面(1/30)

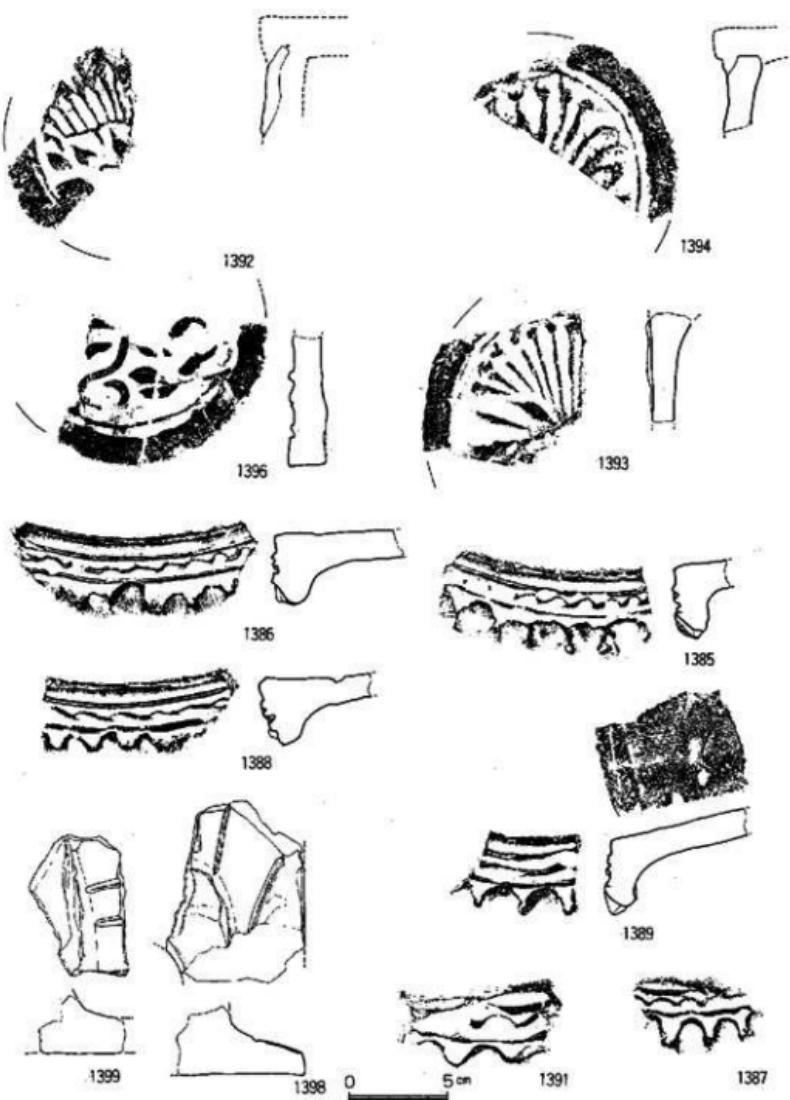


Fig. 19 1号道路出土遺物(1) (1/3)

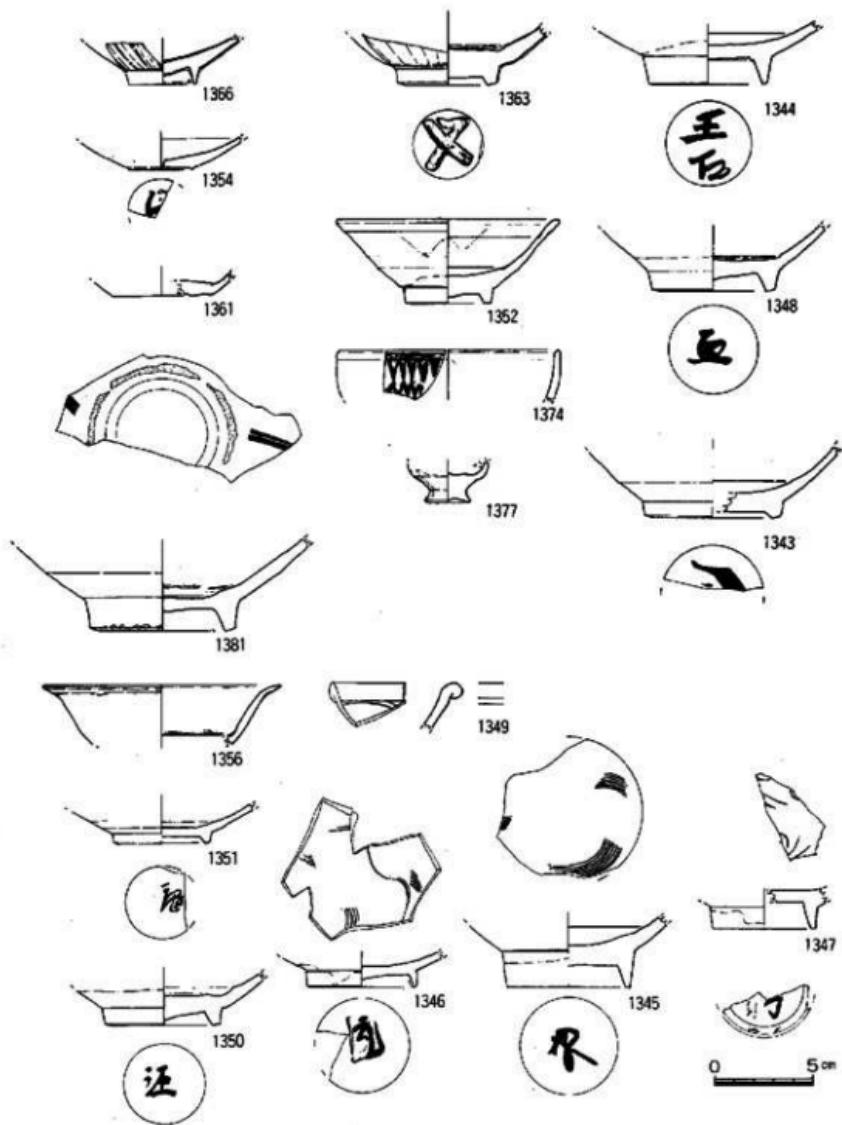


Fig. 20 1号道路出土遺物(2)(1/3)

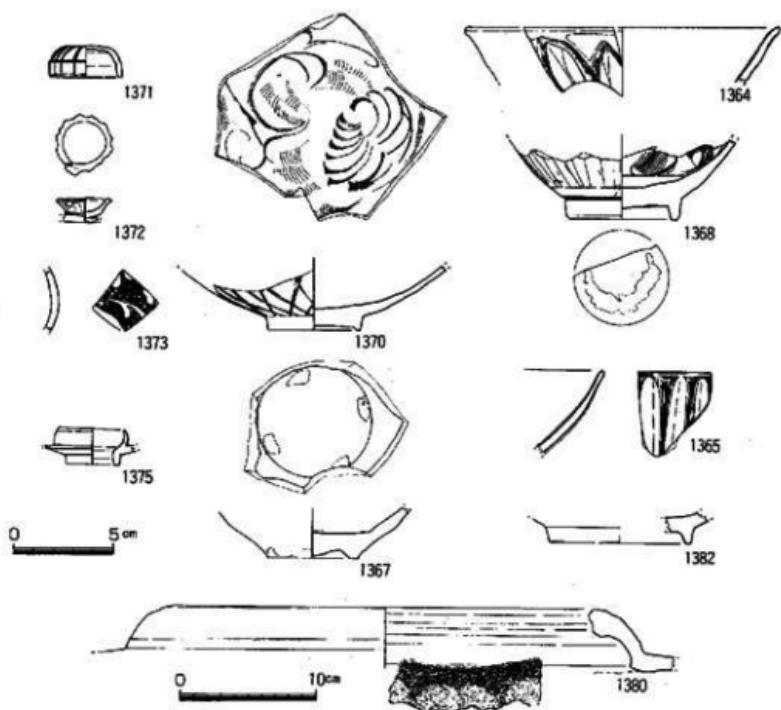


Fig. 21 1号道路出土遺物(3) (1/3, 1380を除く)

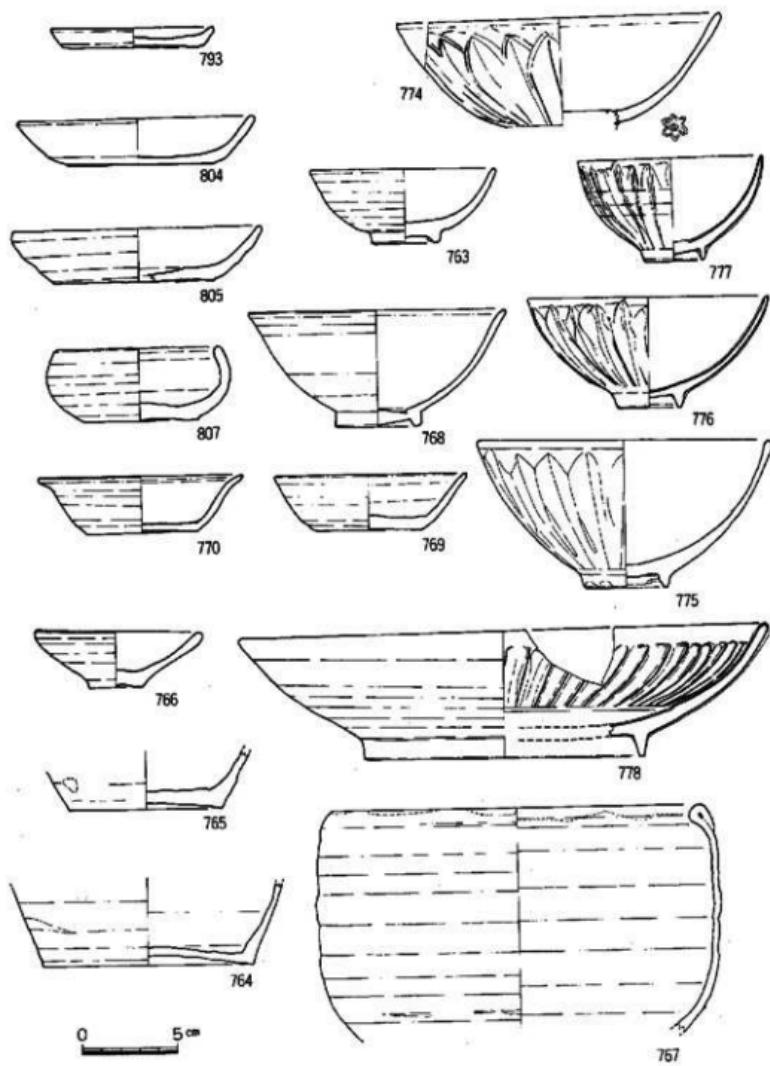


Fig. 22 13号井戸出土遺物(1) (1/3)

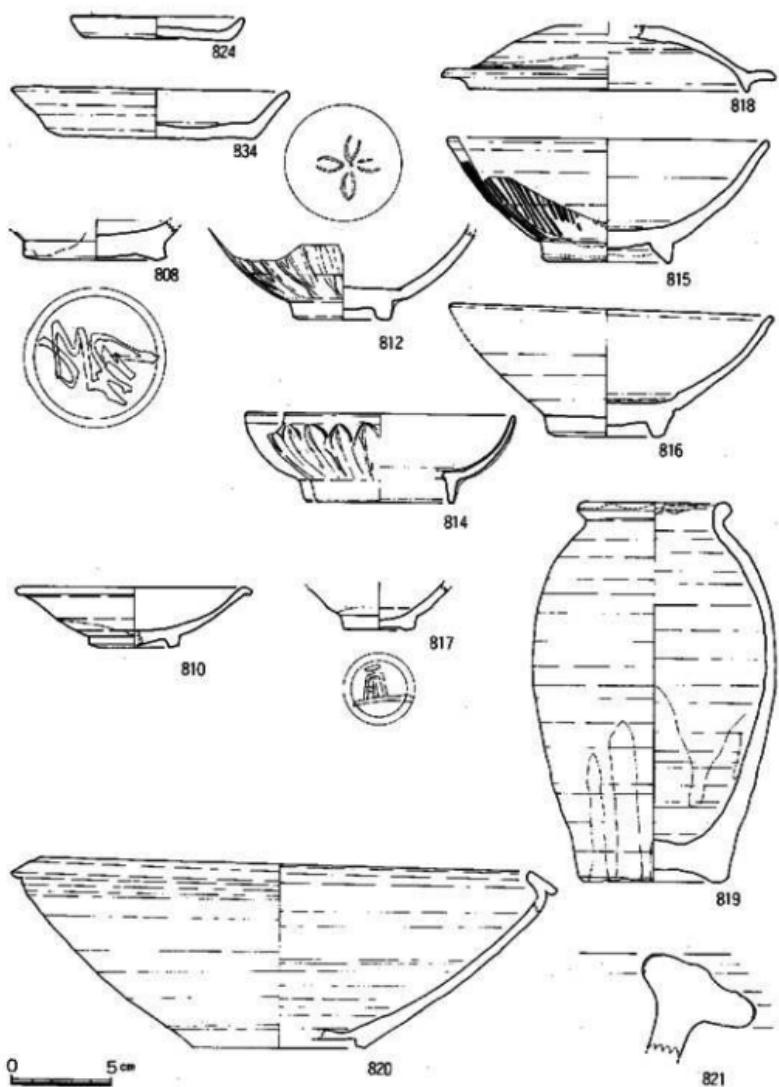


Fig. 23 13号井戸出土遺物(2) (1/3)

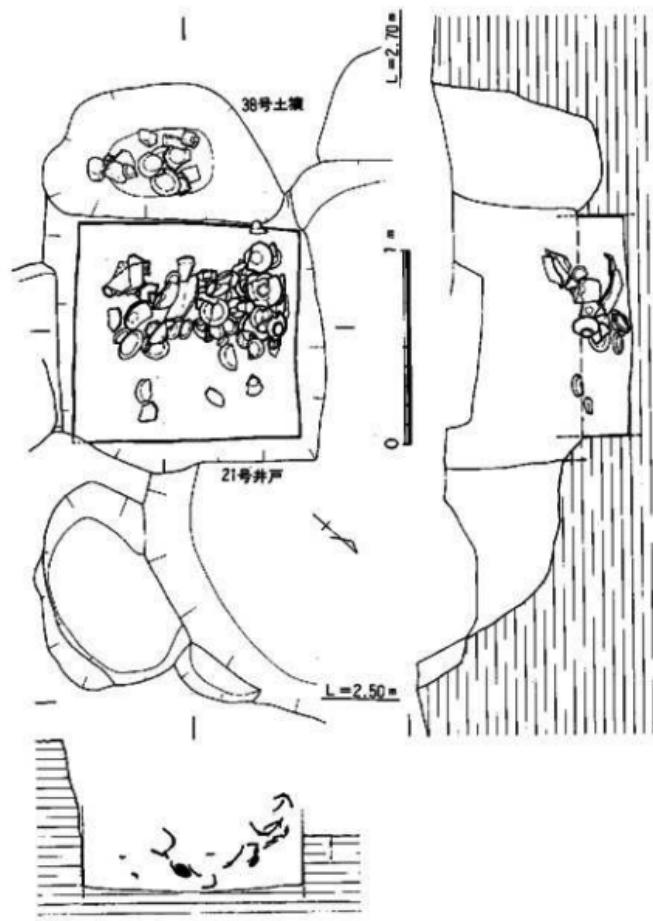


Fig. 24 21号井戸、38号土壤

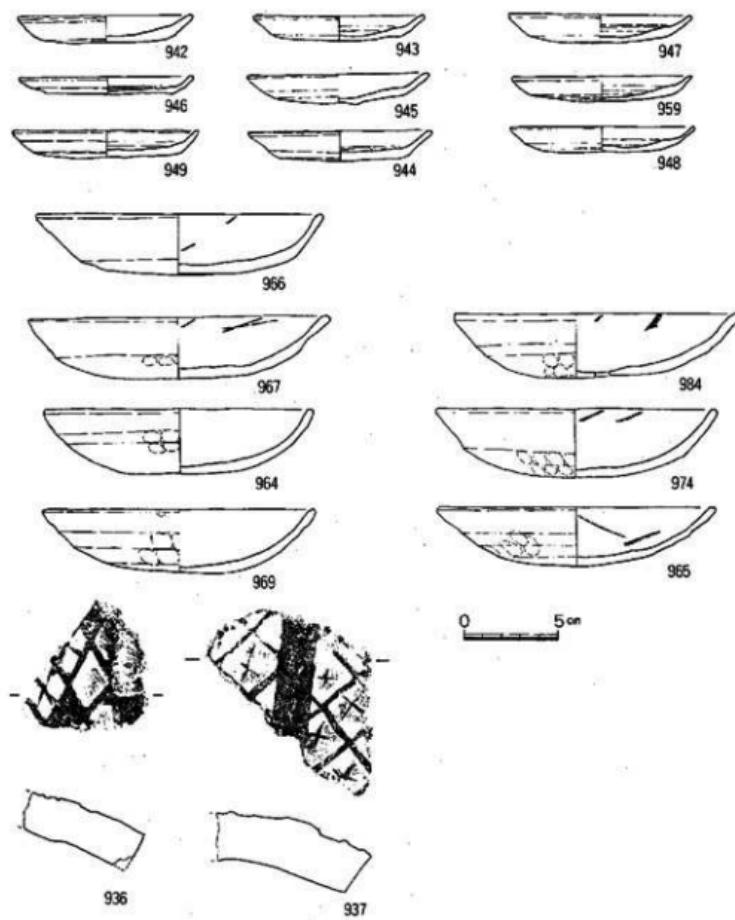


Fig. 25 21号井戸出土遺物(1)(1/3)

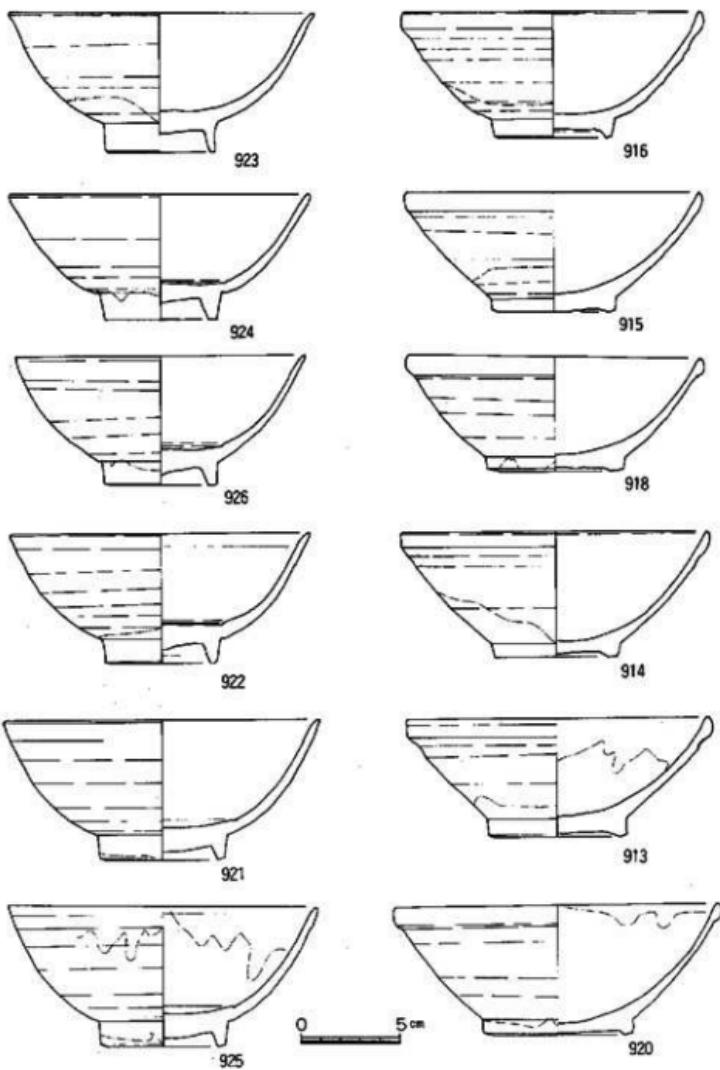
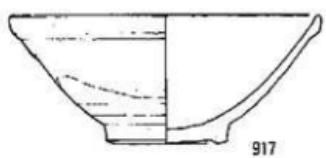
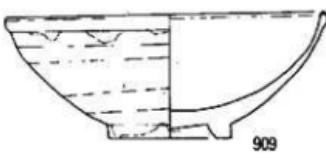


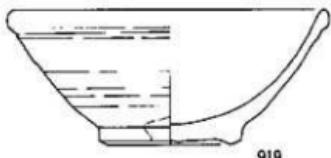
Fig. 26 21号井戸出土遺物(2)(1/3)



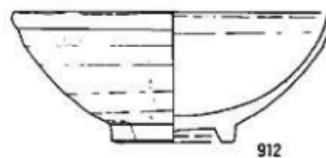
917



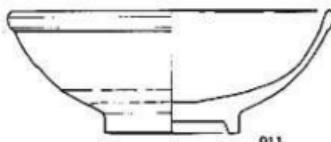
909



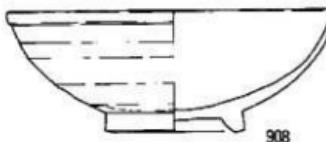
919



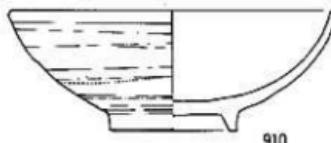
912



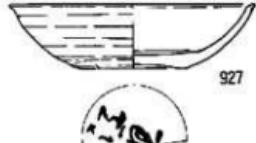
911



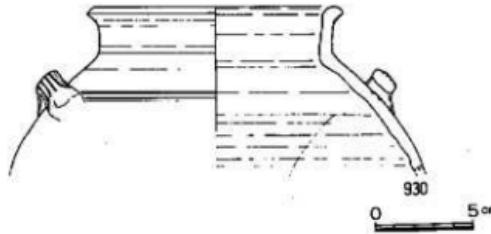
908



910



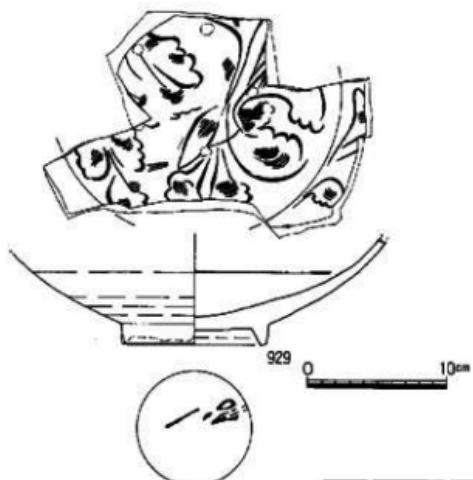
927



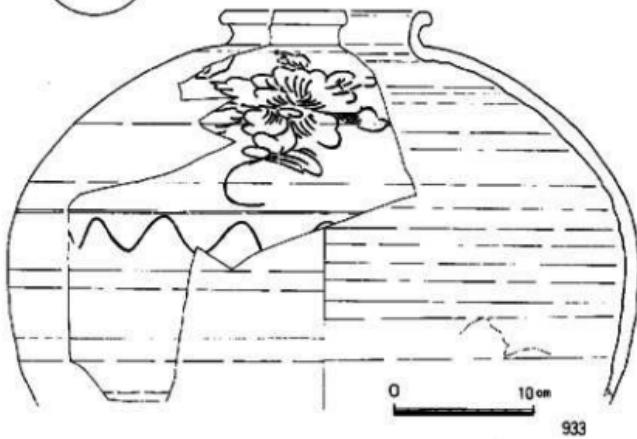
930

0 5 cm

Fig. 27 21号井戸出土遺物(3) (1/3)

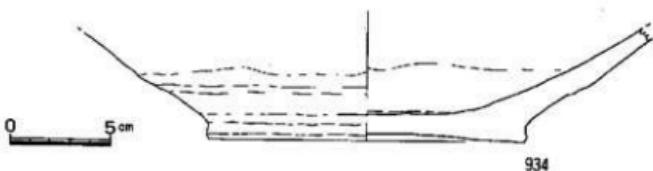


929 0 10cm



0 10 cm

933



934

Fig. 28 21号井戸出土遺物(4) (934は1/3)

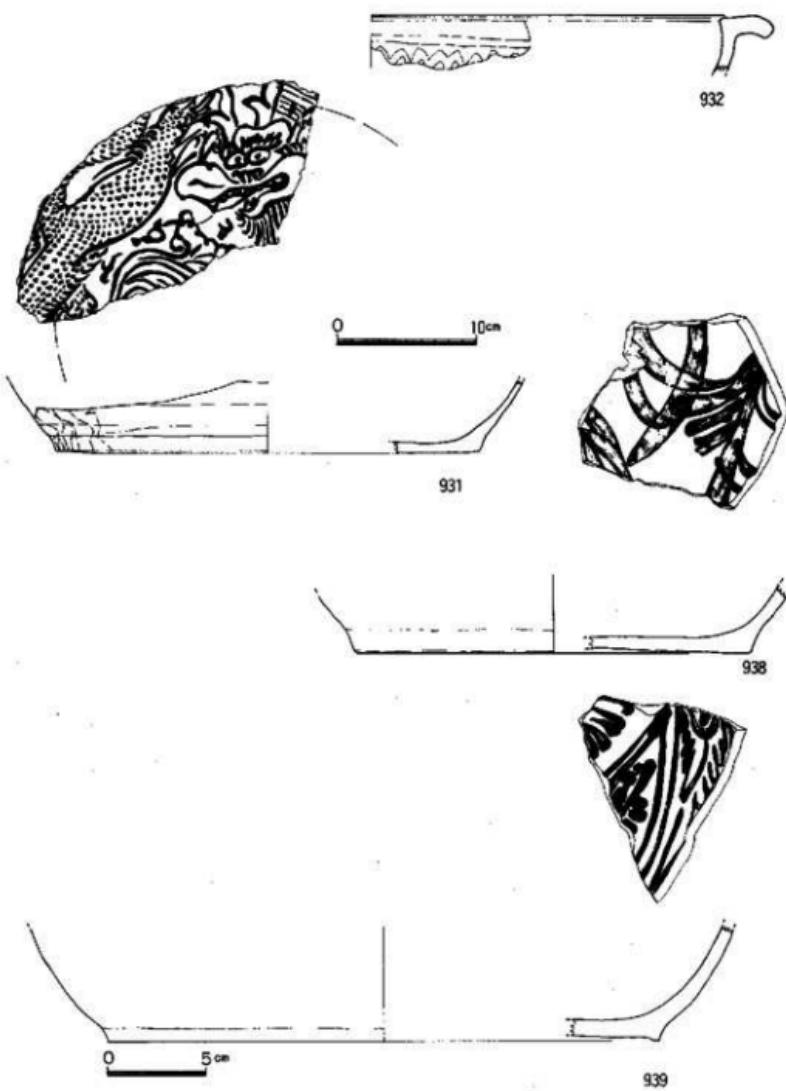


Fig. 29 21号井戸出土遺物(5) (1/3, 931を除く)

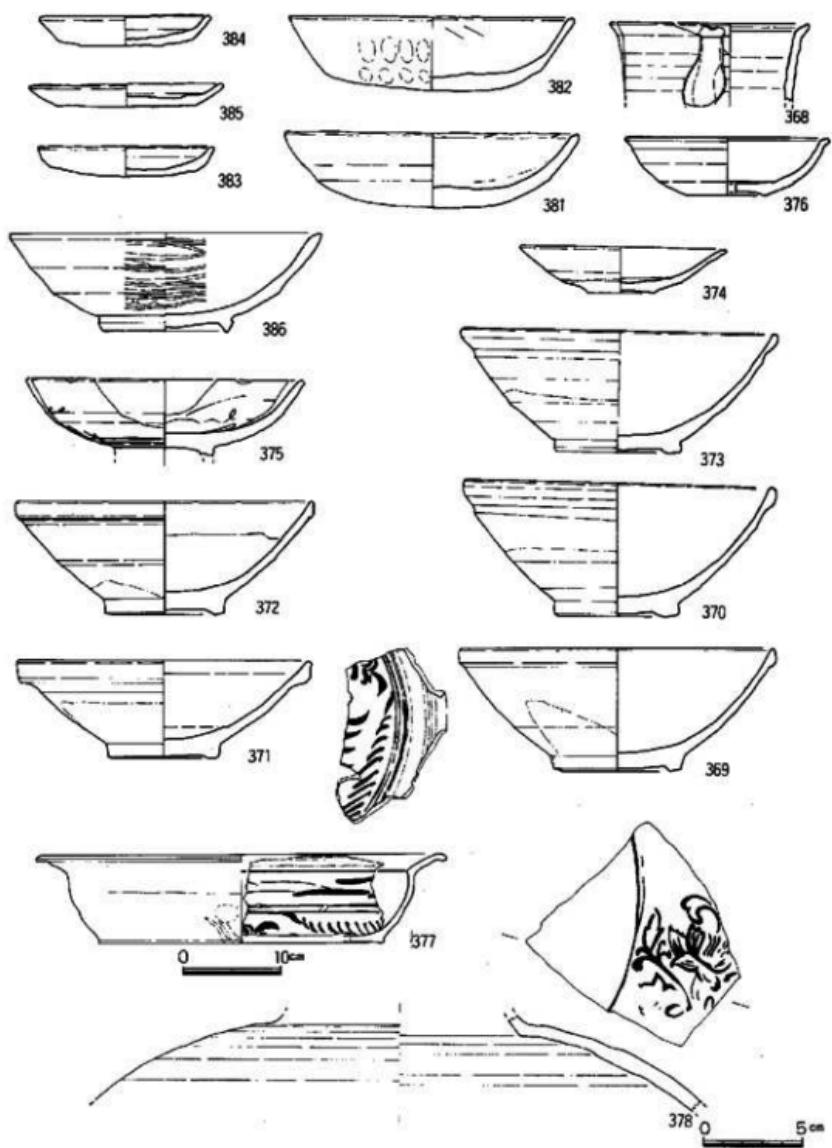


Fig. 30 38号土壤出土遺物(1/3, 377を除く)

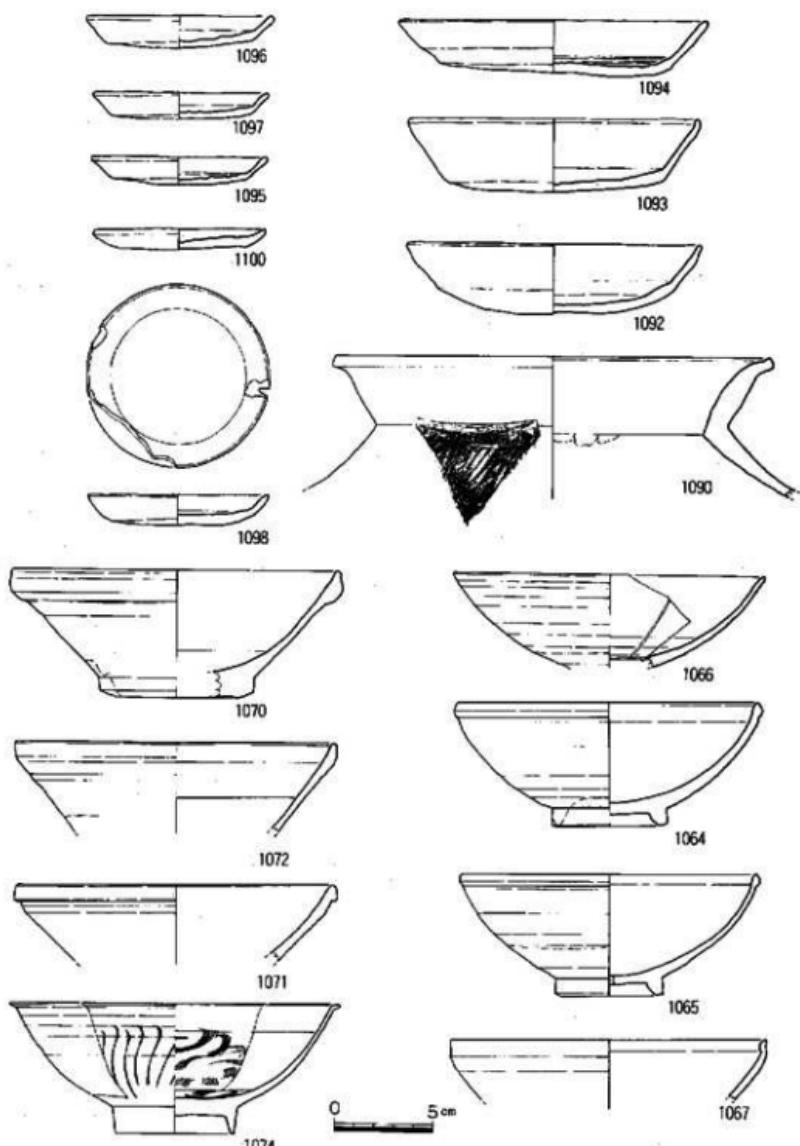


Fig. 31 39号井戸出土遺物(1) (1/3)

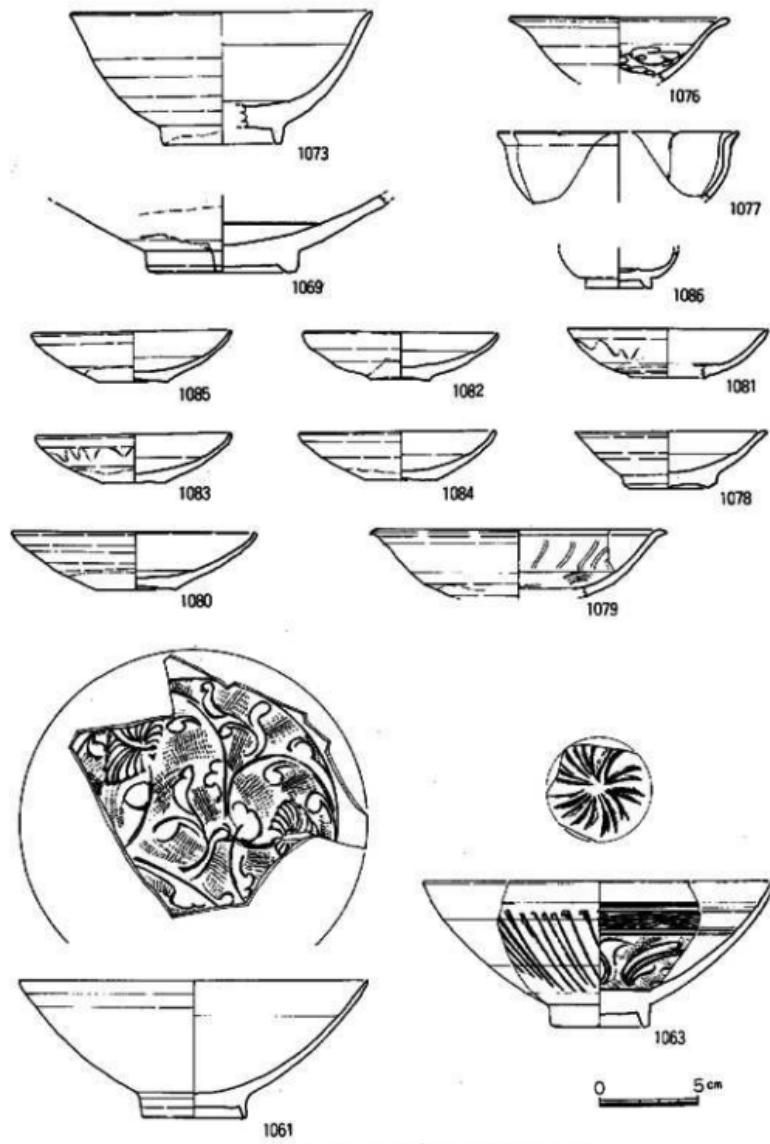


Fig. 32 39号井戸出土遺物(2)(1/3)

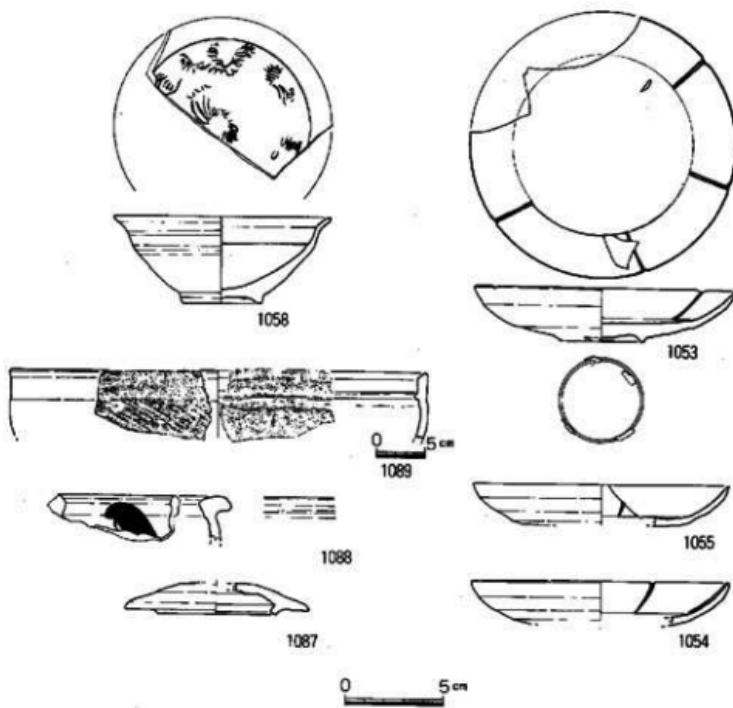


Fig. 33. 39号井戸出土遺物(3)(1/3, 1089を除く)

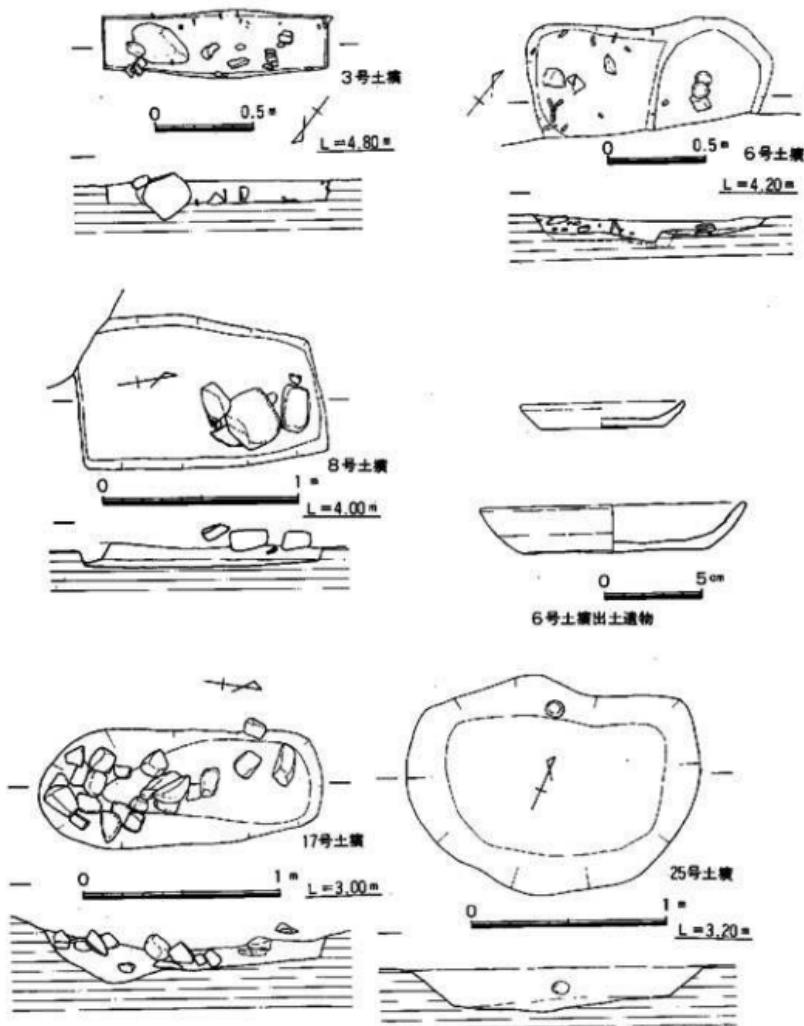


Fig. 34 3号, 6号, 8号, 17号, 25号土壤と6号土壤出土遺物

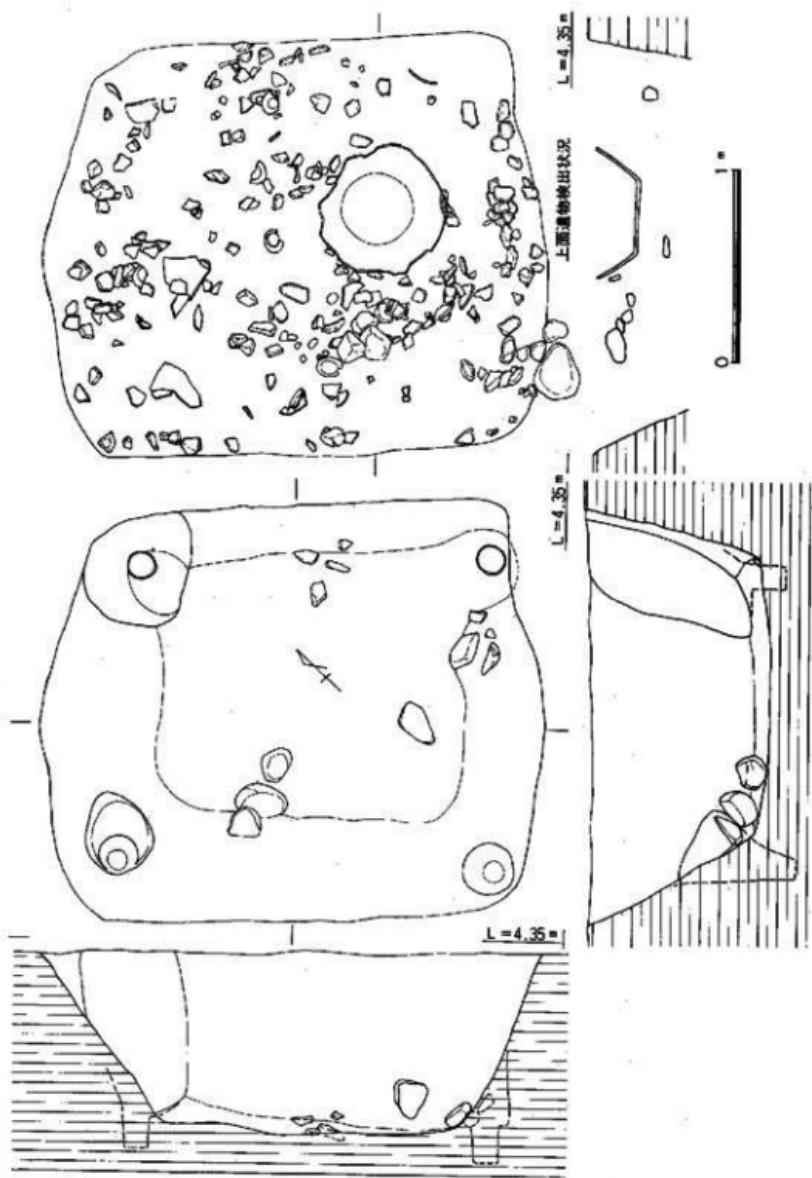


Fig. 35 51号土壤

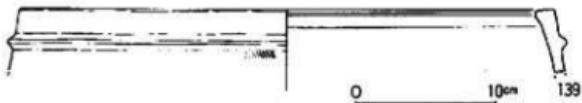
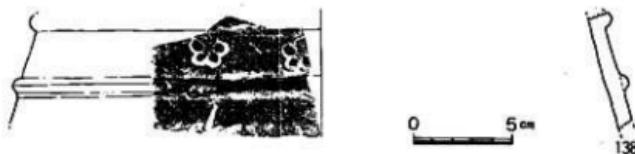
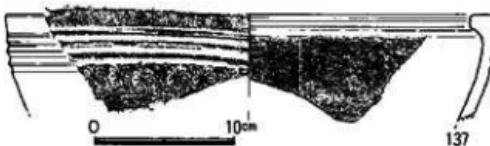
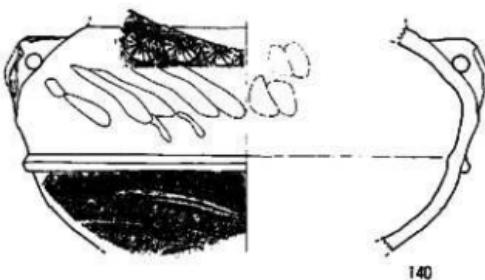
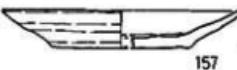
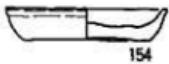
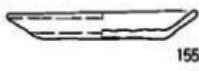
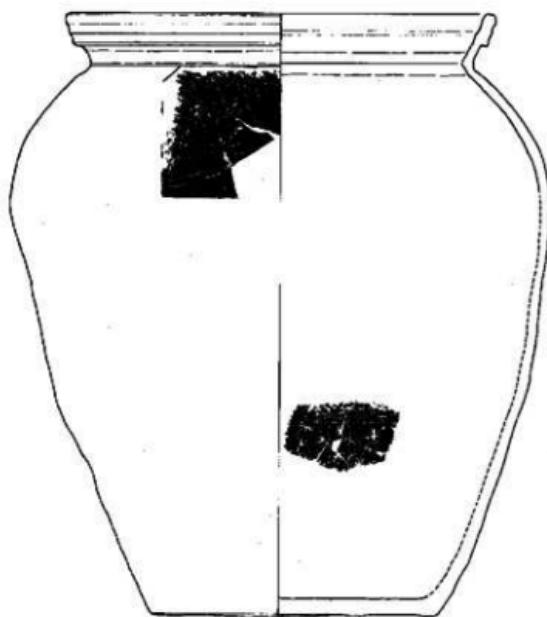
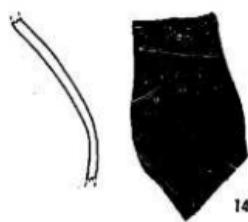


Fig. 36 51号土壤出土遺物(1) (1/3, 137, 139を除く)



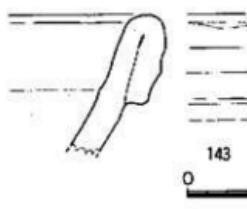
141



142

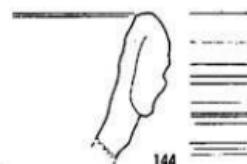


0 10 20 30 40cm



0 10cm

143



144

Fig. 37 51号土壤遺物(2)(1/3, 141, 142を除く)

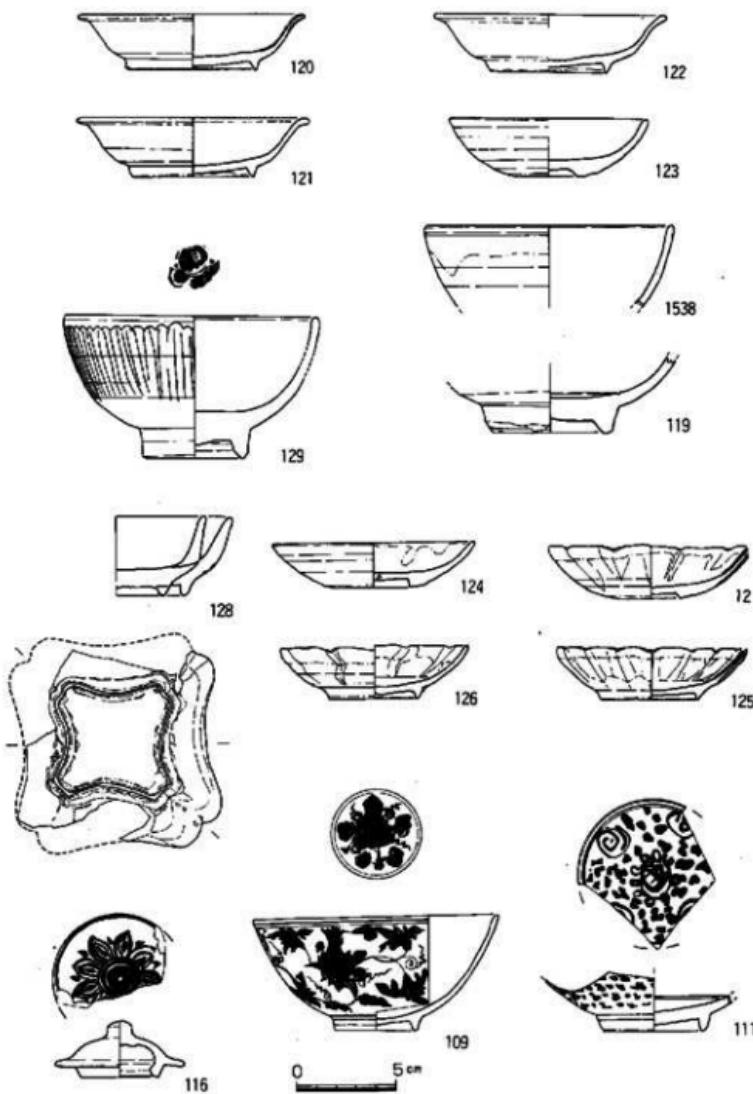


Fig. 38 51号土壤出土遺物(3) (1/3)

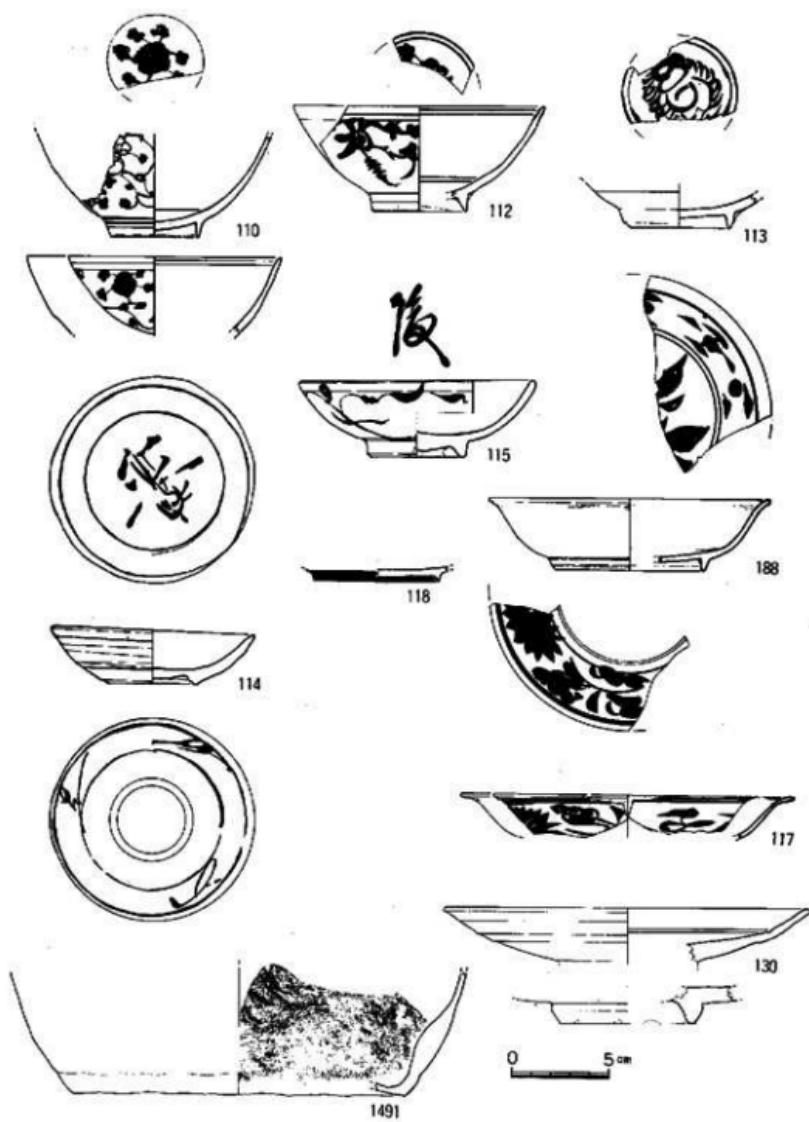


Fig. 39 51号土壤出土遺物(4)

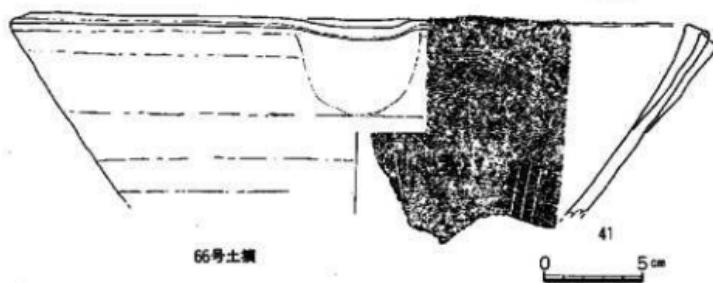
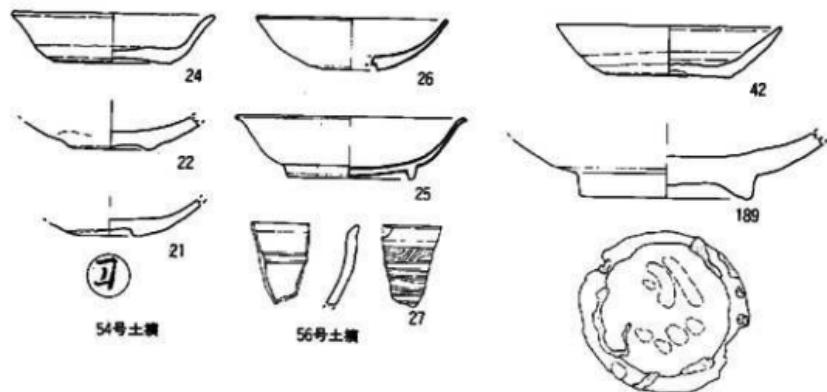
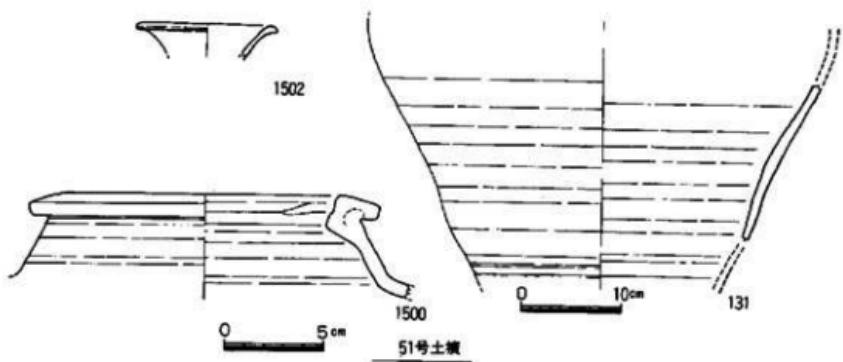


Fig. 40 51号土壤出土遺物(5), と54, 56, 66号土壤出土遺物(1/3, 131を除く)

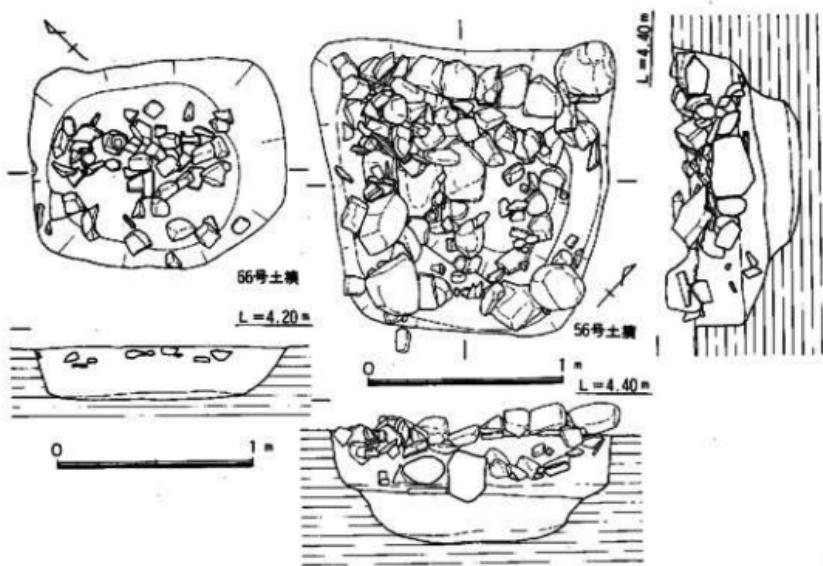
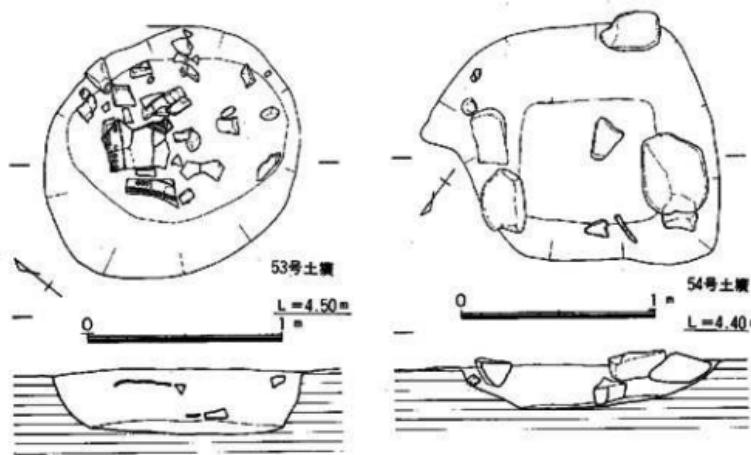


Fig. 41 53号, 54号, 56号, 66号土壤

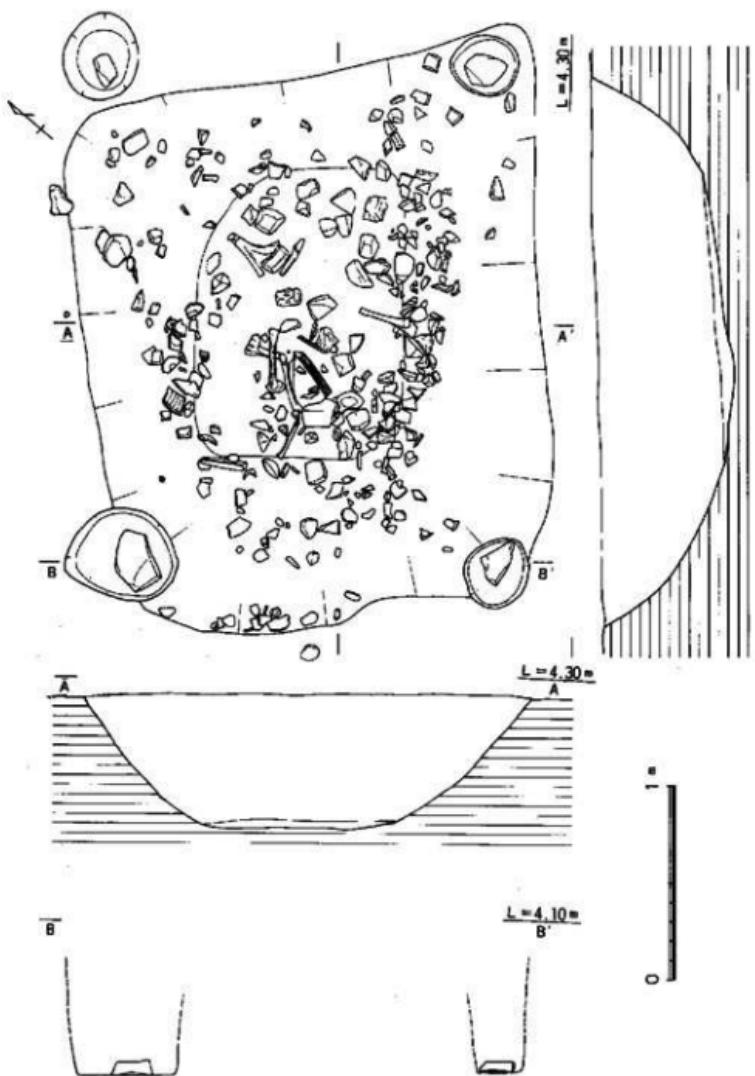


Fig. 42 57号土壤

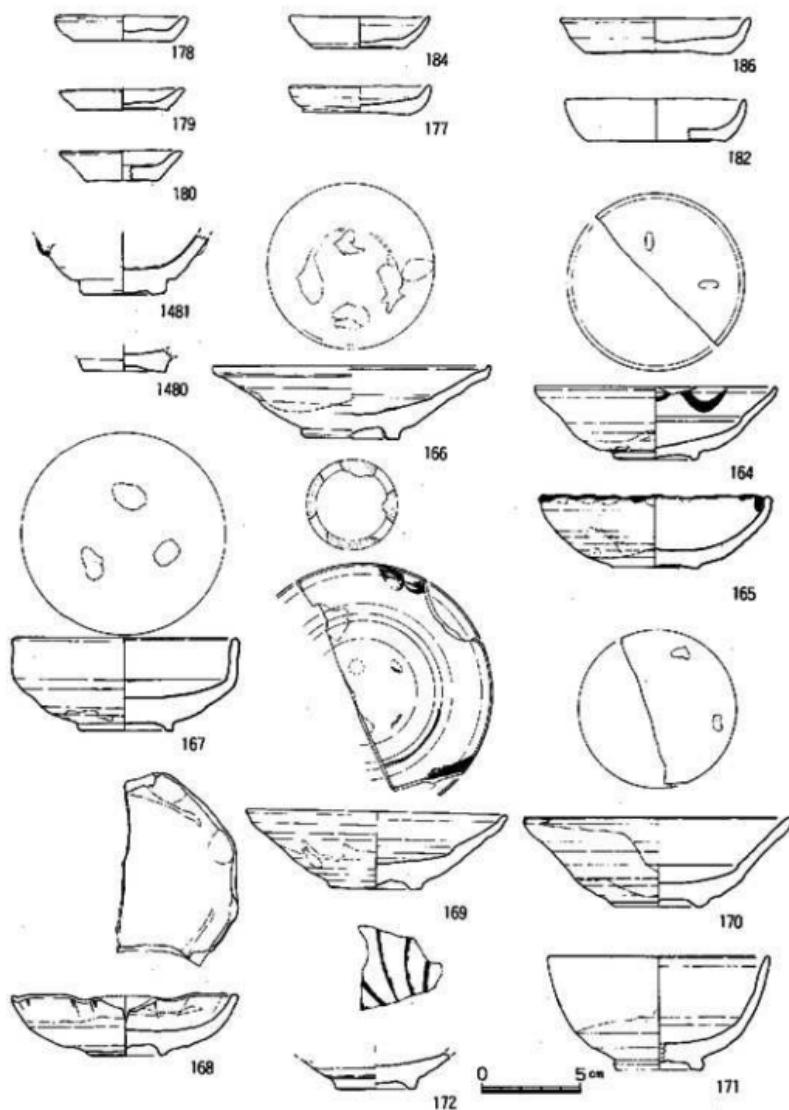


Fig. 43 57号土壤出土遺物(1) (1/3)

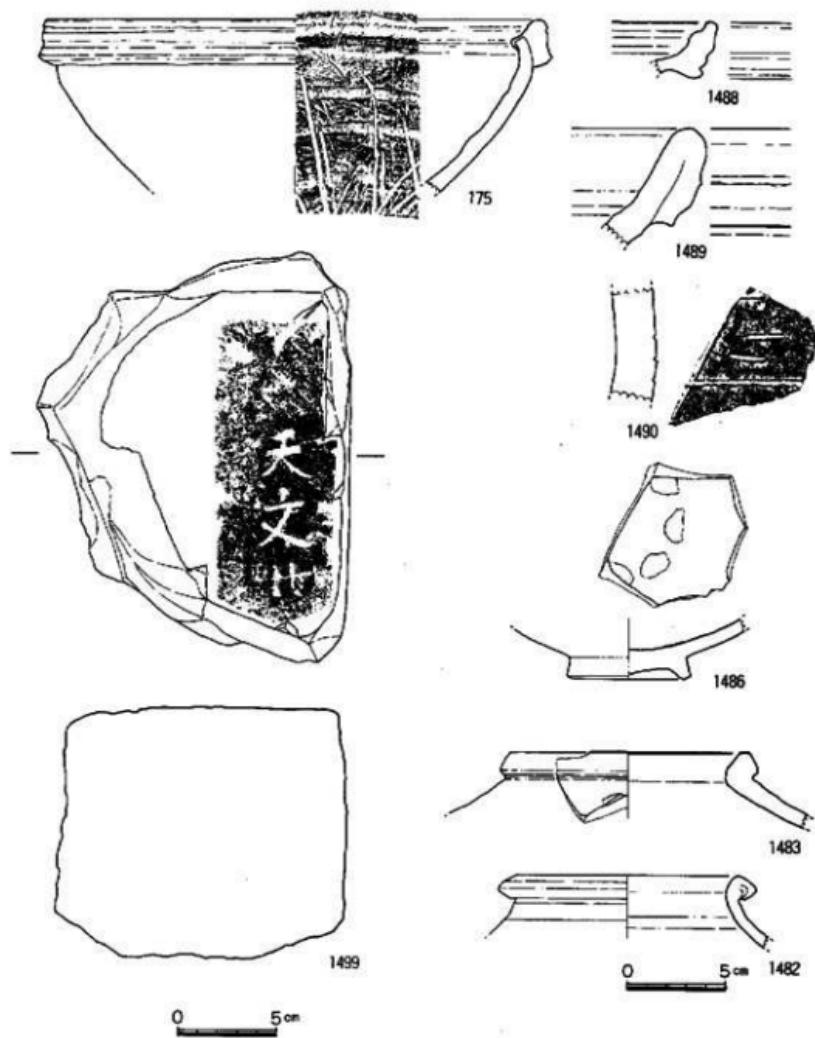


Fig. 44 57号土塘出土遗物(2)

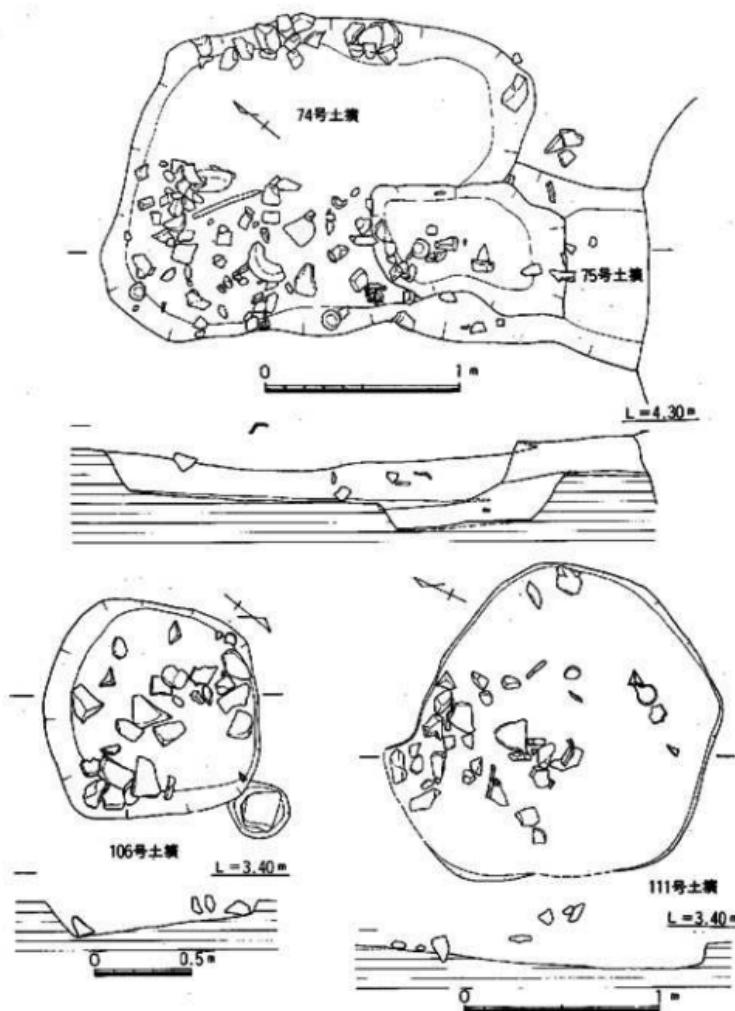


Fig. 45 75号, 106号, 111号土壤

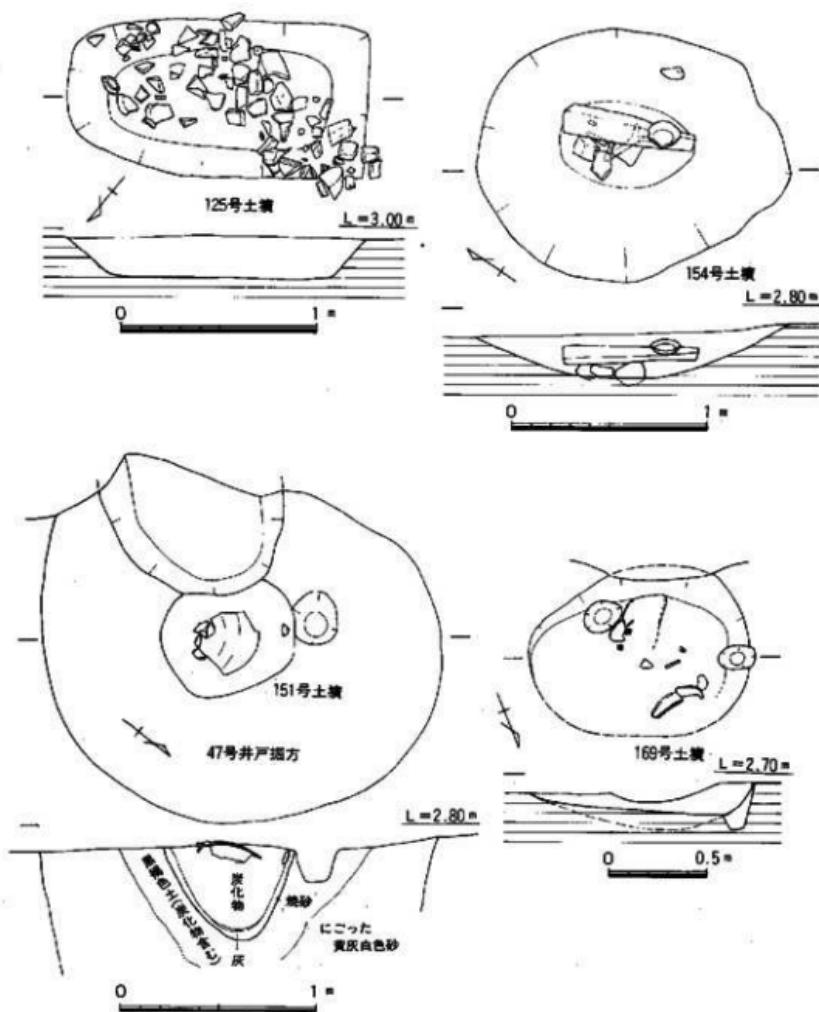


Fig. 46 125号, 151号, 154号, 169号土壤

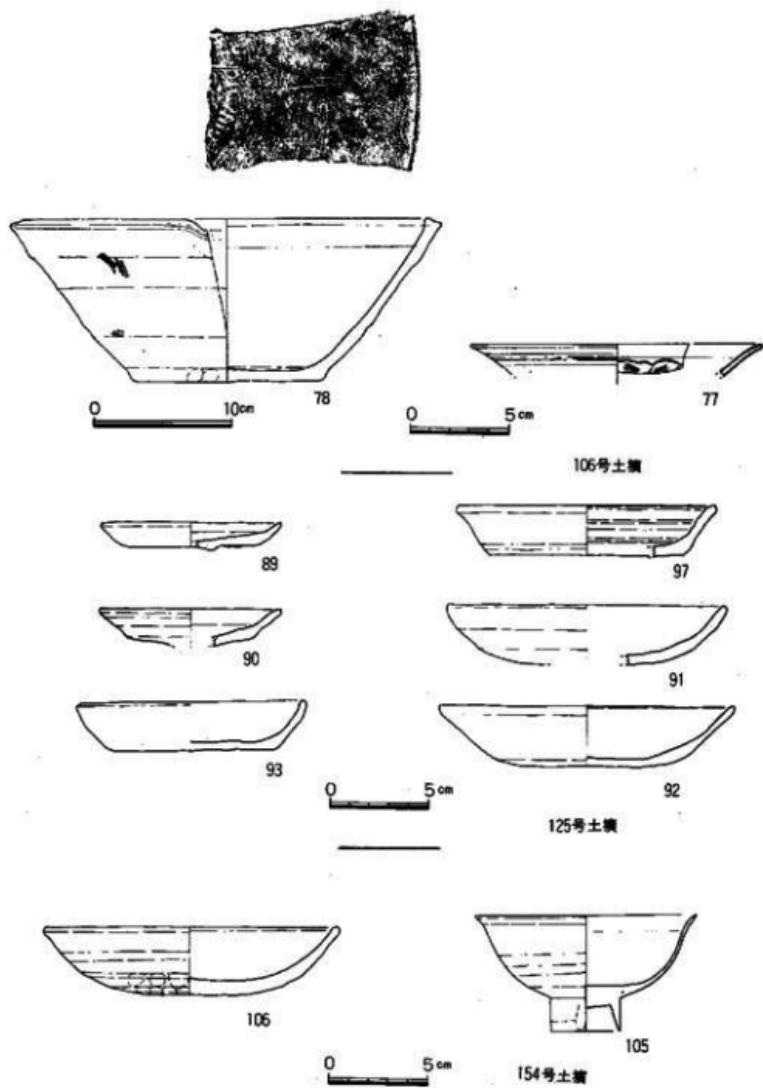


Fig. 47 106,125,154号土壤出土遺物(1/3,78を除く)

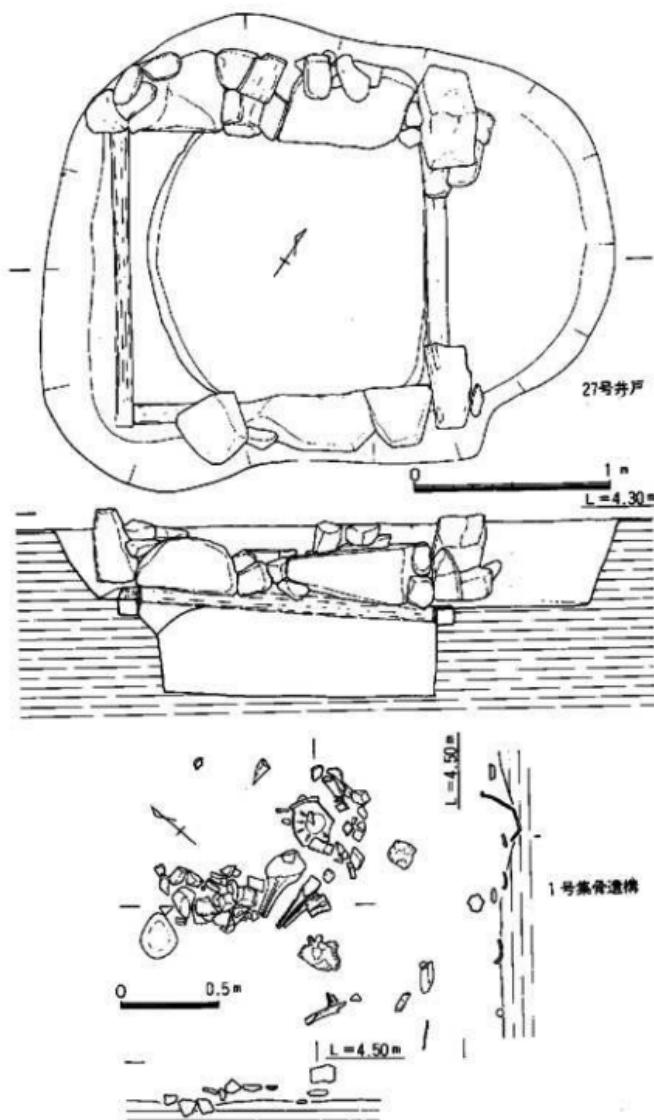


Fig. 48 27号井戸、1号集骨遺構

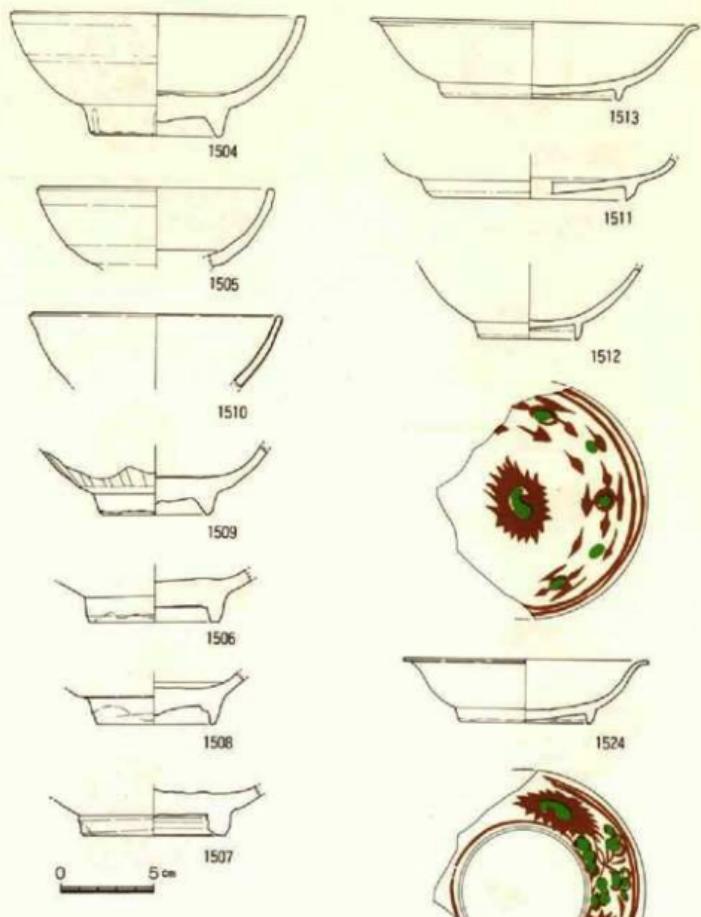


Fig. 49 表土中検出遺構一括遺物(1)

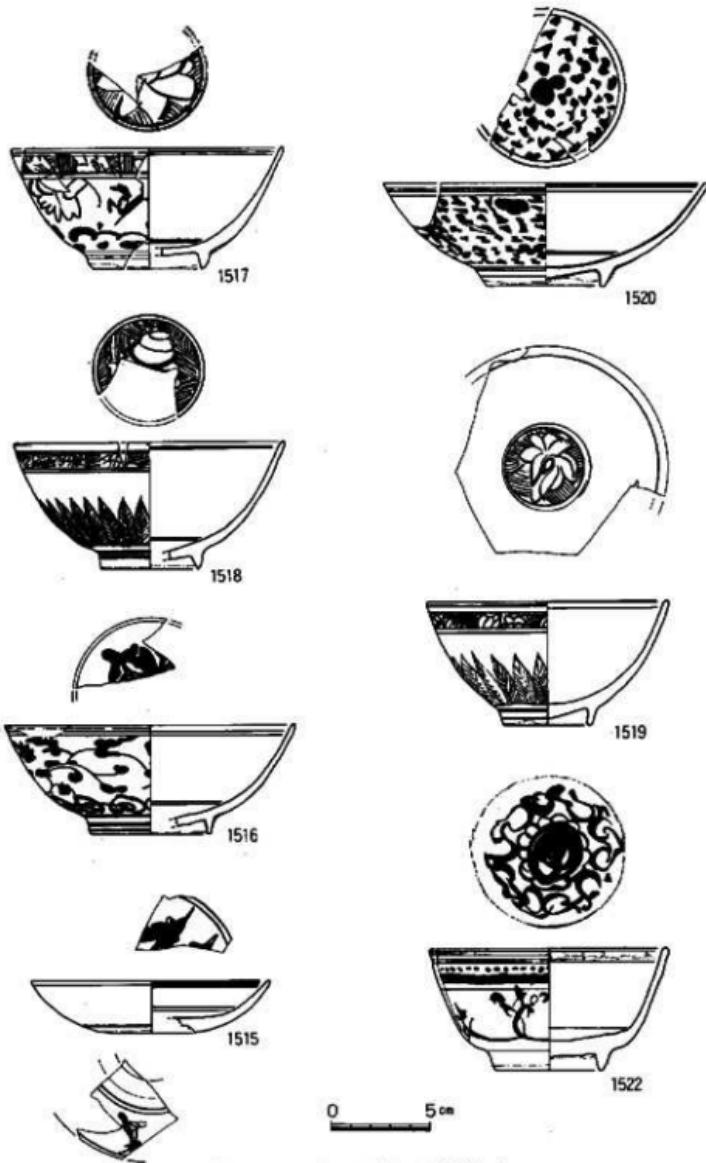


Fig. 50 表土中検出遺構一括遺物(2)



Fig 51 包含層、表土出土遺物
1526 純裏紅壺
1527 元青花片口鉢

第6面 (Fig.8) 地山である黄白色砂層直上で検出された面で、この直上に部分的に奈良・平安時代の包含層も残されている。様々な遺構が11~13世紀を中心に検出されている。

各面で検出した遺構、遺物は多種多様であり、それら總てを今回は紹介できないが、以下本書に掲載した遺構と遺物について概略を記す。

4号石組遺構 (Fig.12~16, PL.13, 14-1)

51号土壤を「コ」の字形にめぐるように様々な大きさの礫を集積した遺構である。礫の中にはFig.13に示すように五輪塔が混在している。51号土壤と集石との間に若干のスペースがあり51号土壤が石組を切っている訳でなく、51号土壤を意識してというより、51号土壤に付属するものではないかと思われる。礫の集中部には數本の杭も打ち込まれている。礫に混って、備前播鉢や、明代の青磁、白磁、染付、李朝粉青沙器、陶器などが出土している。51号土壤、57号土壤の年代から、天文20(1551)年から天正15(1587)年の間に位置づけたい。

5号石組遺構 (Fig.16~17, PL.14-2, 15)

G区北東壁に接して検出された、北東壁側は完結しているが、南東壁側は調査区外に延びている可能性が高い、方形もしくは長方形のプランをもち、縁辺部を小礫を集積して囲み内側を扁平な大礫を敷いており、中央部はやや高まりを見せている。主軸は現町筋から6°前後西に振れている。寺社の堂宇等の基壇と考えたい。覆土から明代染付、白磁等が出土しているが、遺構の年代は14紀代までさかのばるかもしれない。

1号道路遺構 (Fig.18~21 PL.11・12)

H区南東壁に面して調査区を横断する形で検出されている。道路は焼土層の直上に作られており、瓦片を中心に陶磁片等を敷きつめて舗装し、舗装面は酸化鐵によって堅く締まっている。

舗装面の上層には数回にわたる整地、かさあげをなした層があり、道路がしばらくの間継続使用されたことを示しているが15、16世紀の段階で廃絶されている。道路直下に見られた焼土層は、元弘元（1331）年の菊池武時の鎮西探題討入時の放火による火灾に起因するものと考えられている。この状況は同様に道路が発見された博多35次調査地点でも確認されている。このことから遺構の初源は、鎌倉時代と室町時代の変換期に求められる。なお遺構の一部は調査区外に延び全容は不明であるが、道路の北側の肩は削られており、見かけよりも実際の道路方向は北側に傾き、現町筋（横筋）より6～7°北に傾く。図示した遺物は舗装面に敷き込まれていたもので、瓦では内区に枝葉を含む花文を配した軒丸瓦、瓦当面の下端を波状にする軒平瓦が特徴的で、鬼瓦も見られる。これらの遺物はいずれも鎌倉時代のものである。

13号井戸 (Fig.22, 23 PL.25 卷頭図版5-1)

H区北東壁際で検出されている。6号井戸によって切られるが、径3m程度の大きな掘方をもち、ほぼ中央部底に径0.9mの木桶組井筒が残る。この井筒内には13世紀末から14世紀初頭に位置づけられる遺物が一括投棄されていた(Fig.22)。その内容は末尾の一覧表に掲載しているとおりであるが、土師皿類はいずれも糸切底で、小皿は口径8～9cm、器高1.1cm、杯は口径12～13cm、器高2.5cm前後に集中している。白磁は口ハゲの碗、皿があり、龍泉窯系の青磁はいずれもII・III類に含まれている。また、Fig.23に示した遺物は掘方から出土しているもので、時期的には古いものが混っている。イスラム陶器の小片も見られる。

21号井戸 (Fig.24～29 PL.26, 27-1, 2 卷頭図版5-2)

H区最下面で検出されている。一辺1.1mの方形板組の井戸で、縦方向に組んだ板材の痕跡が底面から20cm程度残っている。博多遺跡群においては、この方形板組の井戸は木桶組井戸より古い時期（11世紀～12世紀初め）にのみ見られるものである。ここでは図および一覧表に示すように多量の遺物が一括投棄されており、一括資料として重要である。土師皿類は糸切底がわずかに見られるのみでほとんどヘラ切といってよく、内面にコテあて痕の残る丸底杯、内底に磨きのかかる大皿、小皿からなる。この土師器の様相は大宰府史跡S D1330の様相に近く、11世紀後半から末期に位置づけられる。白磁はII類、IV類、V類の碗が殆んどを占めるが、V類の碗の内面に沈圓線の見られないのが特徴的である。内面に片切彫と模描花文をもち、五ヶ所の目跡をもつ広東系の白磁鉢(929)もあり、胎、釉とともにII類に似る。青磁は見られない。ここでは龍を描いた黄釉鉄絵の大盤(931)も出土しているが、同じ文様のはば完形の盤が築港線2次調査でも出土しており、おそらく対をなしてたらされたものであろう。933は陶器A群の四耳壺で肩に片切彫の花文を施しその下に波状文をめぐらしている。934の陶器C群の捏鉢は底部に明確なくびれを造り古相を示している。

38号土壤 (Fig.24, 30 PL.26, 27)

21号井戸の南側に接して掘り込まれた廃棄物処理土壤である。出土遺物の様相は21号井戸極

めて近い。21号井戸を廃絶し埋戻したのち掘り込まれたものである。青磁は越州窯系水注が1点見られるのみである。11世紀末頃か。

39号井戸 (Fig.31~33 卷頭図版 5-3)

G区検出の井戸である。土師皿類と白磁のあり方は、21号井戸、38号土壤とはほぼ同様であるが、龍泉窯系青磁の古いタイプの碗(1003)がはいっている。また白色地線をもち6輪花になると思われる褐色の釉を施した高麗青磁皿3点(1053~55)も含まれる。11世紀末から12世紀初めに位置づけたい。

その他の井戸 27号井戸(Fig.48 PL.28)は近世の石組で地下室状の遺構というべきである。47号井戸(PL.29-1)は木棧組井戸で11世紀後半代、ヘラ切底の土師皿のみ出土している。

48号井戸(PL.29-2、3)は方形の掘方であるが一辺1.8mと大きく竪穴遺構と呼ぶべきであろう。黄釉鉄松盤(1222)、「上」の墨書銘のある吉州窯琥珀天目(1218)がある。13世紀代か。

51号土壤 (Fig.35~40 PL.13、20 卷頭図版 2、3)

F区第2面で検出した竪穴遺構で、床面の四隅に柱穴がある。遺構の三辺を4号石組遺構がめぐる。長軸2.6m、短軸2.15m、深さ0.9mを測る。この覆土上中には多量の遺物が雜然と投棄され、廃棄物処理土壤として最終的には用いられている。この最上面には備前焼の二石窯(141)が据え置かれ、胴部以上の破片が窯の底部に落ち込むように堆積していた。また、遺物は図示したように明代の青磁、白磁、染付、赤絵、李朝陶器が、備前、古唐津などとともに出土しているが、ここでは焼上と焼けたスサ入り粘土の壁土が多量にみられ、それは天正14(1586)年の島津の博多焼打に起因するものと考えられる。H区の上層(Fig.9)で観察されるように、天正15(1587)年に実施された豊臣秀吉による博多町割の道路が確認され、その直下にも焼上層が見られ、この焼土層は博多35次調査で検出された14世紀以降継続使用された道路遺構が廃絶される段階で確認され、この一帯に広く分布する鍵層と認識されつつある。よって、この遺構は天正14年の戦災処理に用いたものと考えていい。地下式の倉庫のような性格を本來的には有していたのだろうか。町屋の付属施設であろう。

57号土壤 (Fig.42~44, PL.21~22)

51号土壤と同様の柱を四隅にもつ、ほぼ方形の竪穴遺構で、F区第2面で検出された。上面には多量の動物骨(イルカ、鯨等)とともに陶器類が雜然と投棄されており、廃棄物処理に用いられているが本來的には別の用途があったものと思われる。最下面には酸化鉄層が形成され固くしまっていた。柱穴はいずれも根石をもっている。掘方プランが確認できた段階では、柱穴は不明で、下面遺構検出の際に確認できたものである。出土遺物では明代の白磁、染付や、李朝陶磁の他、古唐津、美濃、瀬戸、備前など國產陶磁が増加する。また、ここでは「天文丹…」銘を刻んだ墓石が出土している。砂目跡をもつ唐津は慶長年間に出現するといわれており、

この遺構は16世紀の最終末か17世紀の初頭に位置づけられる。

表土中検出遺構 (Fig.49、50 卷頭図版4)

H区の表七剝ぎの際に明代の青磁、白磁、染付、赤絵だけがまとまって出土したものである。遺構のプランは確認できなかったが、一括資料として重要であり、あえて遺物写真と実測図を掲げた。16世紀前半に位置づけられよう。

その他の遺構

3号土壙、6号土壙 (Fig.34) は、それぞれ近世、室町期の木棺墓で、8号土壙、17号土壙、25号土壙 (Fig.34) は土壙墓と思われ、それぞれ14世紀、13世紀に属す。53号土壙 (Fig.41) は16世紀代の廐棄物処理土壙で瓦質火舎が出土している。54号、56号、66号土壙 (Fig.41) は多くの礫を投棄した廐棄物処理土壙で、いずれも16世紀の後半に属す。74号、75号土壙 (Fig.45) は15~16世紀代の廐棄物処理土壙である。106号、111号土壙 (Fig.45、47) は13世紀代の廐棄物処理土壙。125号土壙 (Fig.46、47) は長方形の掘方をもつ廐棄物処理土壙であろう。13世紀代。151号土壙 (Fig.46) は小土壙中で火を焚いたもので、上面に準A群磁器四耳壺の破片が置かれている。12世紀代か。154号土壙 (Fig.46、47) は、浅い皿状の土壙で長い角柱状の礫を置く。その下から焼けた鹿の枝角が出土した。越州窑青磁、高麗青磁も出土している。11世紀後半に位置づけられるが性格は不明。169号土壙 (Fig.46) は馬の頭骨を埋葬した浅い土壙で、遺物は少ない。11~12世紀代か。1号集骨遺構 (Fig.48 PL.30) は16世紀終末で、イルカ頭骨を廐棄した遺構である。周辺からもイルカの骨は多数出土しており、中には解体時の刃物傷をもつものがあり、食用にされていたものであろう。

釉裏紅、元染付 (Fig.51)

それぞれ、H区包含層、F区表土から出土したものであるが、博多で最初に確認されたものであり、実測図を掲げておく。

3. おわりに

以上、調査の概要を述べてきたが、時間的な制約から発掘調査の成果のわずか一部だけを述べにとどまった。今回報告できなかった部分については、改めて公にせねばならないと考えている。博多の調査で出土する膨大な量の遺物を整理し、報告するには、発掘調査の期間もさることながら、整理に専従しうる体制と充分な期間を確保することが不可欠であると痛感する。さもなくば、出土遺物や遺構のデータは個々人の記憶の片隅に留まるのみで、それも徐々に薄れてゆくに違いない。

青磁	龍泉窯系	網	0 : 1, II - I : 1, III, IV 織文: 1 III - 龍名文: 4, IV - 龍片文: 2 その他の 青白磁		土師器 大皿系切	00831	12.0	8.0	2.1	○	X
A	群	網片: 1, 網繩目: 1, 合子: 青磁色の透明物の網: 1			832	12.0	9.0	2.1	○	○	
B	群	網: 1, 網模: 25			833	13.0	10.0	2.5	○	○	
C	群	毛繩: 3			834	13.5	10.0	2.5	○	○	
D	群	II, III: 4			835	12.5	9.0	2.1	○	○	
						12.2	9.0	2.5	○	X	
822400763	青磁小瓶			土 師 器	小皿 網切片	34					
764	青磁 C群小瓶(青釉葉)			大皿 網切片	{ 小片	100					
765	青磁 A群青釉小口瓶(底部)				大皿	42					
766	青磁皿				皿 大皿小片	37					
767	青磁 C群提梁鉢				高台付片	4					
768	白磁ロハゲ鉢				丸底环片	5					
769	白磁ロハゲ皿				瓦 片	9					
770	白磁ロハゲ盤										
771	白磁ロハゲ皿										
772	白磁ロハゲ盤										
773	青磁龍泉窯系網II										
774	青磁龍泉窯系網II-1										
775	青磁龍泉窯系網II-蓮花文										
776	青磁龍泉窯系網II										
777	青磁龍泉窯系網II-見込に貼花										
778	青磁龍泉窯系網II-内壁に貼花										
779	白磁碗Y又は碗										
780	青磁龍泉窯系網II-1										
781	青磁龍泉窯系小口瓶										
782	青磁C群青釉小口瓶										
783	青磁同安窯系皿II										
784	白磁盤										
785	青磁同安窯系網										
786	青磁同安窯系網										
787	青磁										
807	土師類複鉢(小鉢)										

13号井戸(S E 13)掻掘出土遺物

青磁	龍泉窯系	網	3	白 壺	網	II - 1: 4, II - 4(2), IV - 1: 1, IV - 2: 2 IV - 23, V - 1 - x: 15, V - 2 - x: 14, VI - 1: 15, VI - 3 - 16(4), VI - 5: 4(3), V - VI: 3(3), VII - 2: 2, VII: 8(5), 不明片: 35 貼花: 2, 口沿外反対側へ裏面へへら繊び: 5(3)
土師器 小皿系切	網	9.0 7.0 1.1	○ ○ ○ ○	平底皿	II - 1: 1, II - 3(3), IV - 2: 1, VI - 1: 3(2) ロハゲ皿 2: 5, 不明片: 1(1)	
8082	青磁A群小皿系切	9.0 6.0 1.1	○ ○ ○ ○	その他の	蓋: 5, 法: 1: 1 青州窑系の盤: 1	
853	青磁A群小皿系切	8.0 6.0 1.6	○ ○ ○ ○	青磁	網	
824	青磁A群小皿系切	8.5 7.5 1.6	○ ○ ○ ○	同安窯系	網	
825	青磁A群小皿系切	8.5 6.5 1.6	○ ○ ○ ○	龍泉窯系	網	
826	青磁A群小皿系切	9.0 6.5 1.6	○ ○ ○ ○	平底皿	I - 2: 1, I - 3: 4, II - 1: 3, II - 2: 1, 外部無人足窓文で内壁側がある: 3, III - 蓋: 1, 蓋: 1, 蓋: 1, 蓋: 1, 蓋: 1	
827	青磁A群小皿系切	8.5 7.0 1.1	○ ○ ○ ○	平底皿	I - 2: 1(1), 小片: 1	
828	青磁A群小皿系切	8.0 7.0 1.1	○ ○ ○ ○	その他の	青磁: 1, 法: 1: 1, 法: 1: 1, 法: 1: 1, I - 小片: 1	
829	青磁A群小皿系切	9.0 7.0 1.1	○ ○ ○ ○	青白磁	網: 1, 网: 1, ロハゲ皿: 2, 合子(網): 1, 法: 2 袋物: 1	
830	青磁A群小皿系切	9.0 7.0 1.1	○ ○ ○ ○	天 盤	網: 2	
831	青磁A群小皿系切	8.0 6.0 1.6	○ ○ ○ ○	陶器 A 群	I - 网: 1: 1, I - 网: 2: 1, I - 网: 3: 1, 网片: 6, I - 内壁蓋: 3, III - 小片: 1, III - 平: 2	
832	青磁A群小皿系切	9.0 7.0 1.3	○ ○ ○ ○	準 A 群	青磁青白磁系	
833	青磁A群小皿系切	9.0 7.0 1.2	○ ○ ○ ○	B 群	水注の把手: 1, 直筒片: 14	
834	青磁A群小皿系切	8.0 6.0 1.1	○ ○ ○ ○	C 群	直筒片: 1, 程杯: 3(2), 俊鉢心片: 3	
835	青磁A群小皿系切	12.0 9.0 2.5	○ ○ ○ ○	D 群	4(4, 5): 1, 不明片: 8	
836	青磁A群小皿系切	12.0 9.0 2.5	○ ○ ○ ○			
837	青磁A群小皿系切	13.0 9.0 2.5	○ ○ ○ ○	822400808	白磁碗W'九柄'跡 白磁碗 V - 青墨書	
838	青磁A群小皿系切	12.0 8.5 1.8	○ ○ ○ ○	810	白磁高台付皿	
839	青磁A群小皿系切	12.5 8.5 2.5	○ ○ ○ ○	811	青磁同安窯系	
840	青磁A群小皿系切	14.0 9.0 2.5	○ ○ ○ ○	812	青磁龍泉窯系網II-1, 見込にスタンプ文	
841	青磁A群小皿系切	13.0 8.5 2.0	○ ○ ○ ○	813	青磁龍泉窯系	
842	青磁A群小皿系切	14.0 9.0 2.5	○ ○ ○ ○	814	青磁龍泉窯系小口瓶, 外壁に墨文	
843	青磁A群小皿系切	14.0 9.0 2.5	○ ○ ○ ○	815	青磁碗, 色斑地墨取	

822400935	陶器C群往鉢3
936	格子平瓦
937	格子平瓦
938	陶器A群盤
939	陶器A群盤
940	陶器A群盤
941	高麗青磁片
1430	ガラス玉(青緑)
1431	ガラス玉(青)

須 恵 器	环蓋:5, 环:22, 大型容器:29, 頭部1
古 宮 系 隅 鋼	4, 凡玉:1
瓦 質 土 器	1
土 質 土 器	6
石 製 品	6
金 属	磨石製鏡:1, 磨石:2, 銀石:1
そ の 他	銅釘:5, 銅の付着物:1
	堆積:3

39号井戸(5 E 39)出土遺物

種 類	遺物番号	口径	底径	深さ	作成年	状況
二頭面丸底へち切	01092	15.0	丸底	3.5	?	○
土頭面大底へち切	1093	14.5	10.5	3.7	○	○
	1094	16.0	11.5	2.2	○	○
土頭面小底へち切	1095	9.0	6.5	1.5	○	○
	1096	9.5	7.5	1.7	○	○
(へち切)	1097	9.0	7.0	1.4	○	○
	1098	9.0	6.5	1.5	○	○
	1099	9.0	6.5	1.6	○	○
	1100	9.0	7.0	0.8	○	○
土頭面大底へち切	15.0	丸底	3.2	?	?	
	15.0	丸底	3.0	?	?	
	15.0	丸底	3.5	?	?	
	15.0	丸底	2.3	?	?	
土頭面大底へち切	13.0	11.0	3.1	?	?	
	16.0	11.0	2.8	○	○	
	16.0	11.0	3.2	?	?	
	16.0	11.0	3.4	○	○	
	14.0	10.0	3.2	○	○	
	15.0	10.0	3.1	○	○	
	14.0	9.0	3.5	○	○	
(へち切)	17.0	9.0	3.6	○	×	
土頭面小底(へち切)	16.0	7.0	0.8	×	?	
へち切	9.0	7.5	1.2	×	×	
	18.0	7.5	1.1	○	○	
	9.5	7.0	1.2	○	○	
	9.0	7.5	1.4	○	○	
	18.0	7.0	1.4	?	?	
	9.0	7.0	1.1	○	×	
	18.0	9.0	1.2	?	?	
	9.0	7.0	1.1	?	?	
	9.5	8.0	1.4	?	?	
	18.0	8.0	1.1	○	?	
	9.0	7.0	1.2	?	?	
	9.0	7.0	1.2	?	?	
	8.0	7.0	1.3	○	○	
瓦 瓶 鉢		17.0	6.5	5.2		
土 瓦 器	小皿	余切片		18		
		へち切片		129		
		へち切丸底片		2		
		ど片		50		
		余切片		17		
		へち切片		95		
		へち切丸底片		3		
		ど片		283		
		底不明小片		201		
		高台付小片		4		
		墨色上器(内面)小片		2		
		碗		11		

土 器	古窓:8 高台付坏:1, 扇片:2, 盒又は甕:13, 扁堆土器:1
-----	---------------------------------------

白 瓷	碗	0-III:1, II-1:19, II-34(6), 外壁にへち切部観察がある:II, V-2:29 V-1:40(2), V-1-a:24, V-1-b: 1, VI-2:6, VI-3:2, VI-堆積物:1 V-1-VI(5), II-1:(1), IX-3:1 不明片:149, 小碗片:1 II:(1) 高台付皿 平 底 盆	0-黒文:1, II-1:17(1), II-15 (6), II-1-堆積物:2, 不明片:1 碗物:4
青磁	紀泉窯系	碗	0:I, I-2:1, I-3:1 平 底 盆
青 瓷	白 瓷	碗	
陶器	A群	盤片:10, I-4耳壺:6, 茶葉末片:2	
	B群	茶葉末耳壺:3	
	C群	豆片:3	
	D群	毛鉢-1:2, 球鉢-3:2, 挂鉢:6 1	

822401053	高麗青磁皿(繩花)
1054	高麗青磁皿(繩花)
1055	高麗青磁皿(繩花)
1056	高麗青磁皿
1057	高麗青磁皿
1058	青磁越州窑系碗
1059	青磁越州窑系碗
1060	天目碗
1061	青白磁碗
1062	青白磁碗?(内壁に堆積物)
1063	青磁碗(安窓系碗)I-1-c
1064	白磁碗II-1
1065	白磁碗II-1
1066	白磁碗II-2
1067	白磁碗II-内に玉縁
1068	白磁碗
1069	白磁江南系碗
1070	白磁碗II-2
1071	白磁碗II
1072	白磁碗II
1073	白磁碗Y-1-a
1074	白磁碗V-3
1075	白磁碗
1076	白磁小瓶I-b
1077	白磁小瓶II-a
1078	白磁高台付皿I-1
1079	白磁高台付皿II
1080	白磁平底皿
1081	白磁平底皿II
1082	白磁平底皿
1083	白磁平底皿
1084	白磁平底皿
1085	白磁平底皿
1086	白磁盤?
1087	陶器A群盤
1088	陶器A群II 盤
1089	陶器C群盤

822400164	唐津高台付趾
165	唐津高台付趾
166	唐津高台付趾
167	唐津
168	唐津八角形器
169	唐津四
170	唐津高台付趾
171	唐津四
172	唐津付趾
173	美濃
174	飛戸一括
175	蘆前落款
176	蘆前並一括
1480	黒褐輪天三茶碗(芙蓉)
1481	黒褐輪天三茶碗(芙蓉)
1482	李明世
1483	李明福物(四耳)煮
1484	李明致
1485	李朝粉青沙器貨物
1486	李明白碗
1487	李明系捺物
1488	張脚模
1489	張脚二石瓶
1490	(編號)要
1499	喜行(天文元年銘)

土 器 器	胎薄い	小皿	余切片	2
	薄い	小片	3	
		余切片	4	
		小片	2	

地 壁 鋼	坪倉:8, F:5, 大型窓口片:13, 小片:1
古 瓷 類	坪林:2, 豪:26
	白前: 指前:21, 黄:49
	萬:24
瓦 瓢 蒲 盆	指前:2, 火舟:39, 次の組:2, 不明:31
土 瓢 蒲 盆	指前:40, 蒲:39, 黄:19,
	輪の羽口:2, 不明片:17, 小片:58
圓 底 蒲 盆	7
日 本 蒲 盆	2
丸	野半瓦:1, 丸瓦:14, 平瓦:14, 片:5
其 の 他	壁土:65

白 瓷 類	H:11, D:11, W:8(1)
	V:1 a:11, V:2 a:11, W:14,
	V:~W:6, D:14, 小片:32
	張脚鉢:1, 見込無を掲載する中華製:1
小 瓷 類	見込無を掲載:6:1
	平底皿 0-三線文:2(1), H:20(1)
	ロハグ皿:2
其 の 他	その他の 袋物片:24
	明 代 瓷片:2, 八角小鉢片:1, 不明片:1

4号石組造構出土遺物

品種	遺物番号	口徑	底径	高さ	厚さ
土師器人頭余切	01324	11.0	6.0	2.6	X X
	1325	11.5	6.0	2.5	? ○
		6.5	5.5	1.0	○ X
土師器小皿余切	1326	6.5	4.0	2.0	X X
		6.5	5.5	1.6	○ ○
		6.5	5.5	1.4	○ ○
	1327	7.0	5.0	1.5	○ X
		7.0	5.5	1.6	○ X
	1328	7.0	4.0	1.9	? ○
		7.0	5.0	1.6	○ ○
土師器大皿余切		11.0	6.5	2.2	? ?
		12.0	7.0	2.8	○ ○
		11.0	6.0	2.5	X ○
		11.0	7.0	2.1	? ?
		10.0	6.0	2.7	? ?
		11.0	7.0	2.4	? ○
土師器小皿余切		8.0	5.0	1.8	X X
		8.0	5.0	1.7	? ?
		8.0	5.5	1.5	X X
		7.0	5.0	1.5	? ○
		7.0	5.0	1.5	? X
		7.0	6.0	1.7	X X
		7.0	5.0	1.6	○ ○
		7.0	5.5	1.5	? ?
		7.0	5.0	1.5	X X
		8.0	5.0	1.7	? ?
		7.0	5.0	1.7	? ?
		6.0	4.0	1.5	? ?
		8.0	5.0	1.5	X X
土 器 器	小皿 余切片	104			
	小片	36			
	大皿 余切片	111			
	小片	124			
	圓不明小片	268			
	圓合付小片	3			
	碧璽土器	1			

822401308	李朝粉青沙器瓶
1301	李朝青衣青磁盤
1302	李朝粉青沙器紅か
1303	李朝器皿(内華象嵌)
1304	李朝白磁碗
1305	李朝陶器塗輪
1306	李朝器皿蓋
1307	李朝陶器一絆
1308	明代染付碗(裏子碗)
1309	明代染付碗
1310	明代染付皿
1311	明代白磁盤
1312	明代染付ぐい呑
1313	明代染付一絆
1314	白磁八角形小鉢
1315	明代白磁碗
1316	青磁盤(裏子碗)
1317	青磁盤(裏子碗)
1318	青磁碗
1319	青磁盤(裏子碗)~V
1320	瓦真實器火壺一絆

822401321	備前の櫻鉢
1322	備前の櫻鉢
1323	土師器皿墨書き
1492	李銅透
1493	明代朱台画
1494	青磁龍泉窯系刷毛V-2
1495	青磁龍泉窯系刷毛V-2
1496	青磁龍泉窯系刷毛V-2
1497	青磁龍泉窯系刷毛底足
1498	青磁龍泉窯系高台付花V-枝花茎
1528	五輪塔 空・風輪
1529	五輪塔 空・風輪
1530	五輪塔 空・風輪
1531	五輪塔 水輪
1532	五輪塔 火輪
1533	五輪塔 空・風輪
1534	五輪塔 水輪
1535	五輪塔 水輪
1536	五輪塔 水輪
1537	五輪塔 水輪

ガラス・玉類一覧

遺物番号	出土遺構・層位	種類
822401341	F区 SX-03	ガラス
1420	H-23区 5号土壙	水晶玉
1422	G区 55号土壙	ガラス玉(朱色)
1423	G区 55号土壙	ガラス玉(青)
1425	F-33区160号土壙	ガラス玉
1426	F-33区160号土壙	ガラス玉
1428	H区 8号井戸	ガラス玉(白)
1429	H区 18号井戸	ガラス玉(青と白)
1436	F-32区4号井戸(裏口)	翡翠勾玉
1437	F-24区 51号井戸	ガラスねじり等
1438	F-24区 51号井戸	ガラス玉(白)
1439	F-24区 51号井戸	ガラス玉(翠)

822401440	F-24区 51号井戸	ガラス玉(翠)
1441	H-22区 1号土壙	ガラス玉(翠)
1442	H-22区 1号土壙	ガラス
1443	H-22区 1号土壙	ガラス玉(翠)
1444	H-22区 1号土壙	ガラス玉(青)
1445	H-22区 1号道路	ガラス片
1446	H-22区 1号道路	ガラス玉(白)
1447	H-12区 第4面	ガラス片(翠)
1448	H-12区 第5面下層	ガラス玉(青緑)
1449	H-12区 第6面	ガラス玉(青緑)
1450	H-12区 第6面下層	ガラス片(翠)
1451	H-13区 第3面	ガラス玉(白)
1452	H-13区 第6面	石製疾身具
1453	H-22区 第2面	ガラス玉(白)(墨題)
1454	H-22区 第5面最下層	ガラス玉(青)
1455	H-22区 第5面	ガラス片(墨状)(青)
1456	H-22区 第6面	翡翠勾玉
1557	H-22区 第6面下層	ガラス玉(青)
1458	H区	ガラス玉(白)
1459	G-02区 第6面	ガラス玉(青)
1460	G-03区 第4面	ガラス玉(青)
1461	G-03区 第6面	ガラス玉(青)
1462	G-03区 黄土堆混	ガラス片(青)
1463	G-04区 第5面	ガラス片(青)(墨題)
1464	G-12区 第6面	ガラス片(青)
1465	G-22区 第5面下層	ガラス玉(赤)
1466	G-23区 第5面	ガラス片(水色)
1467	G-23区 第6面	ガラス玉(青緑)
1468	F-32区 第1面	ガラス片(翠)
1469	F-32区 第6面	ガラス玉(青と白)
1470	F-32区 第7面	ガラス片(水色)
1471	F-33区 第2面	ガラス玉(赤色・不透明)
1472	F-33区 第5面	ガラス玉(赤色・不透明)
1473	F-33区 第5面下層	ガラス玉(青緑)
1474	F-33区 第5面下層	ガラス玉(青と白)
1475	H-22区 1号上層	ガラス玉(青)

写 真 図 版

PLATES



博多遺跡群周辺航空写真



1. 島港線1次調査区調査前（西より）



2. 島港線1次調査区全景（西より）



1. 梁港線 1次調査区調査前（西より）



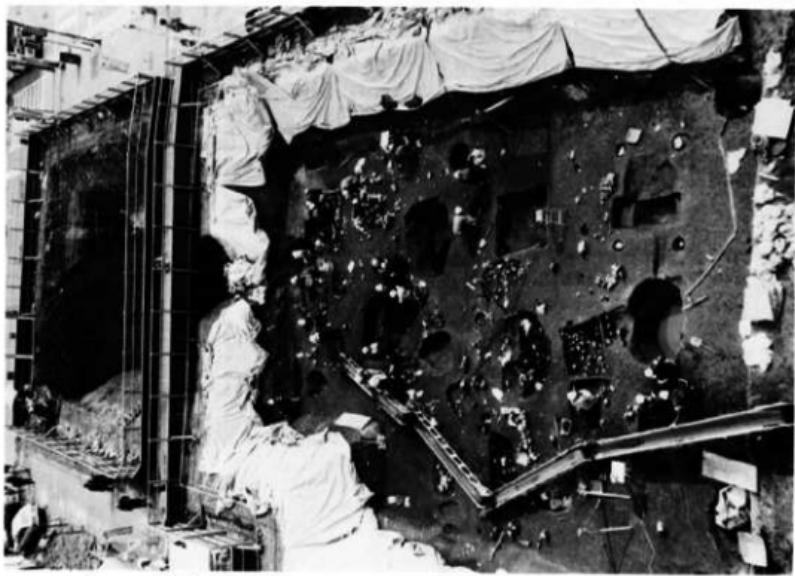
2. 梁港 1次調査区工事着手（西より）



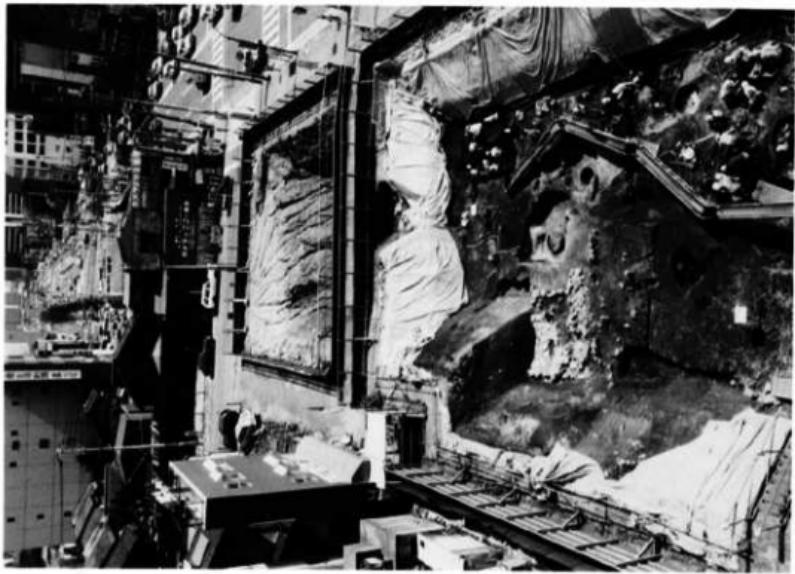
1. F・G調査風景



2. F・G区調査風景



1. F・G 区調査風景 (北西より)



2. F・G 区調査風景 (北西より)



1. 日区遺構最下面全景（南西より）



2. 日区遺構最下面全景（北西より）



1. F・G区遺構全景（北西より）



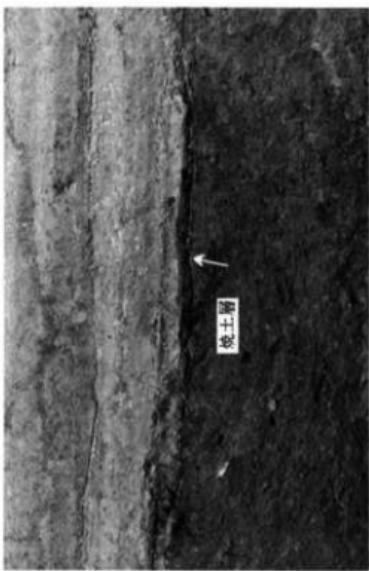
2. F・G区遺構最下面全景（北西より）



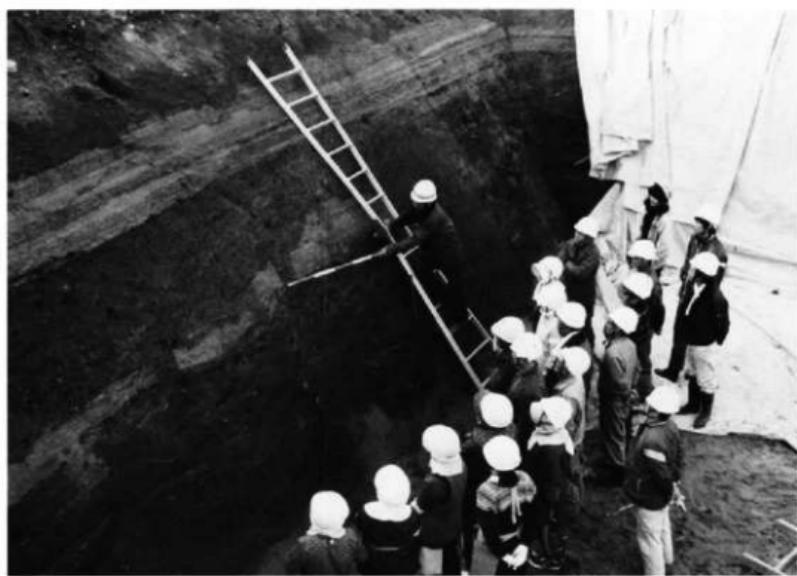
1. H区南壁上部道路邊構土層斷面（北東 $\pm 45^\circ$ ）



2. H区南壁上部道路邊構土層斷面狀況（北西 $\pm 45^\circ$ ）



3. H区南壁上部道路邊構土層斷面狀況（北西 $\pm 45^\circ$ ）



1. 日区土層堆積状況（北より）



2. F区東壁土層断面（南西より）



1. G区東壁土層断面（西南より）



2. G区東壁土層断面（南西より）



1. 1号道路遺構全景（北より）



2. 1号道路舗装道路面部分（北西より）



1. 1号道路橋全景（北東より）



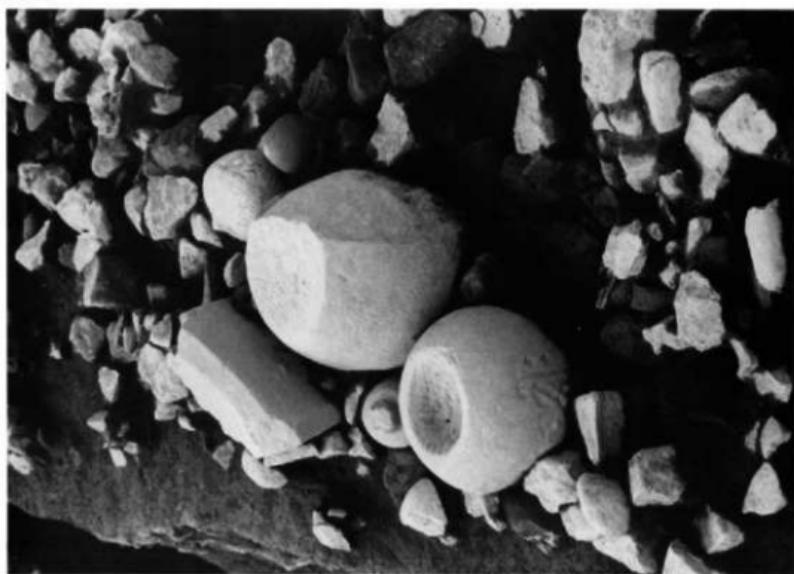
2. 1号道路橋全景（南西より）



1. 51号土壤と4号石組遺構（東西より）



2. 51号土壤と4号石組遺構（北西より）



1. 4号石組遺構 五輪塔出土状況（南東より）



2. 5号石組遺構（南東より）



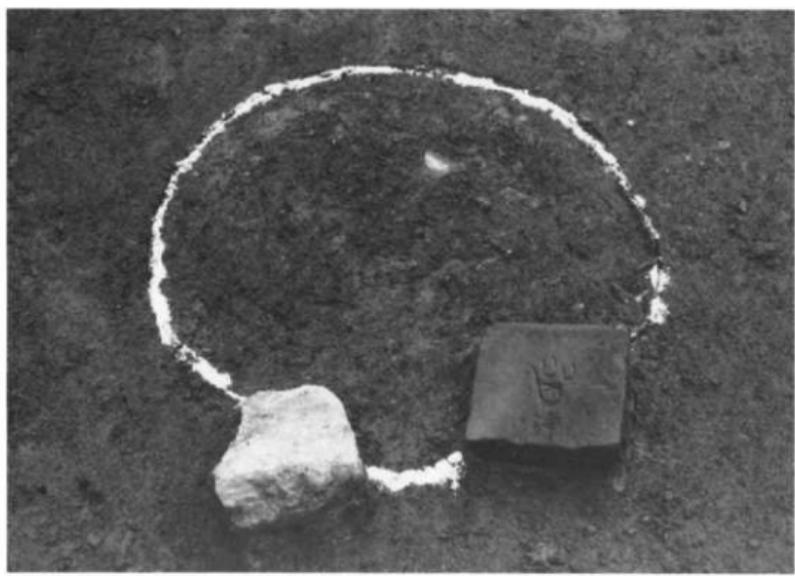
1. 5号石組遺構（北東より）



2. 5号石組遺構（西より）



1. 2号土壤（北東より）



2. 4号土壤（北西より）



1. 9号土壤(西より)



2. 17号土壤(東より)



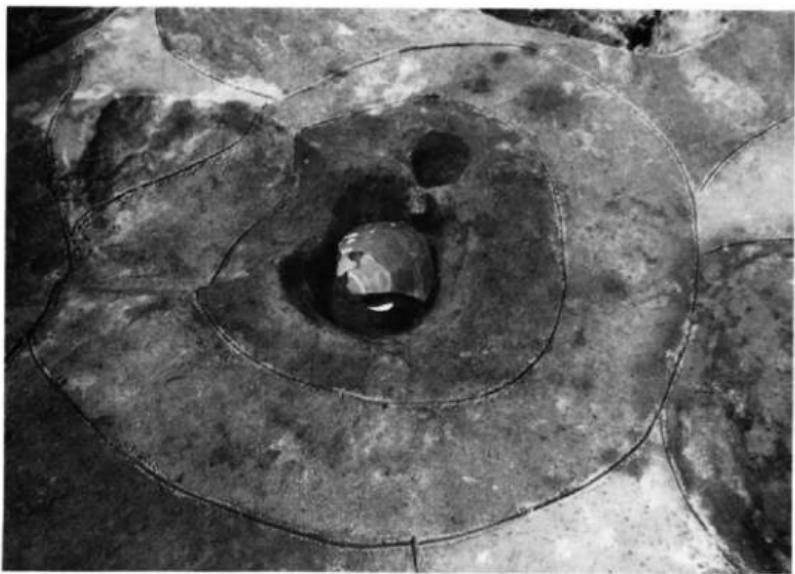
1. 53号土壙（北東より）



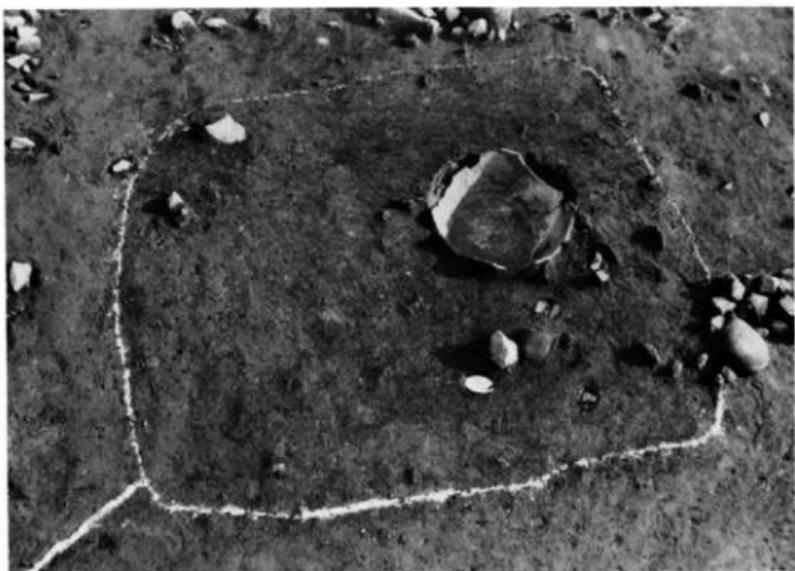
2. 74号、75号土壙（南東より）



1. 80号土壤（南東より）



2. 151号土壤（東より）



1. 51号土壤検出状況（西より）



2. 51号土壤遺物出土状況（北西より）



1. 57号土壤上面遺物出土状況（西より）



2. 57号土壤下面（北西より）



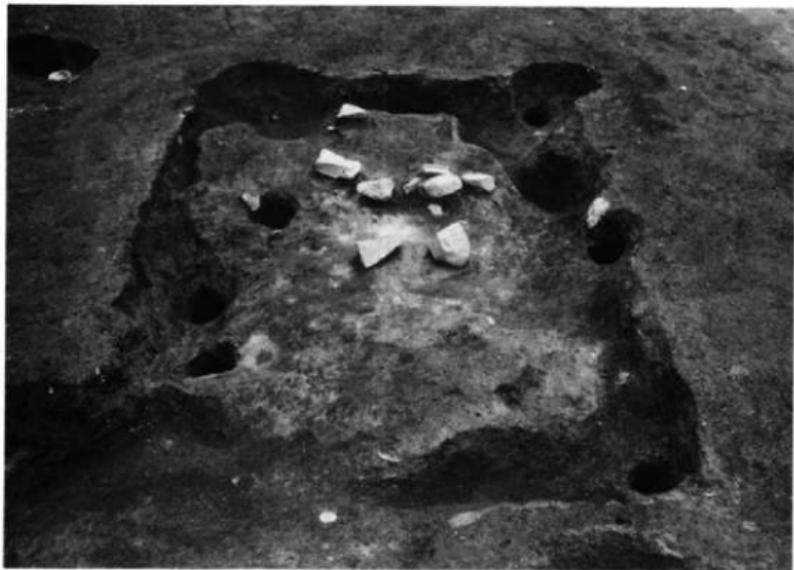
1. 51号土壙上面遺物出土状況（北西より）



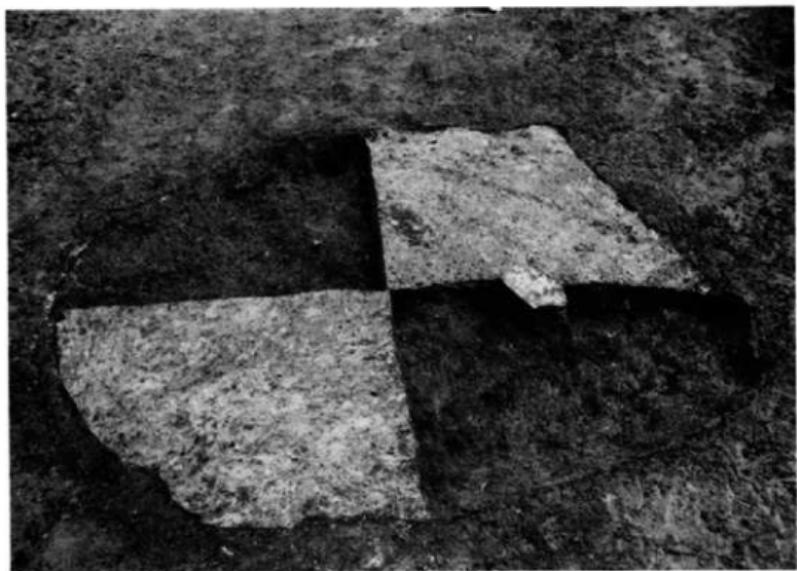
2. 51号土壙「天文-寺」陪葬石出土状況（北西より）



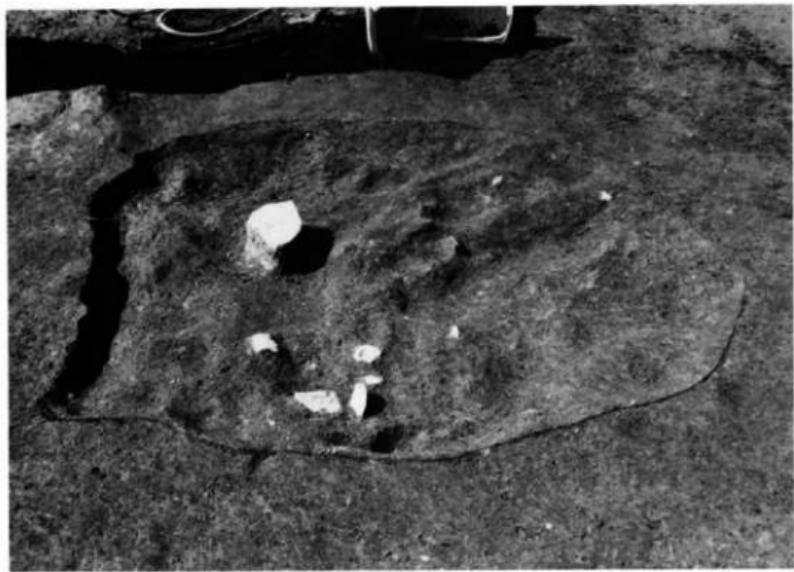
1. 105号土塚（南東より）



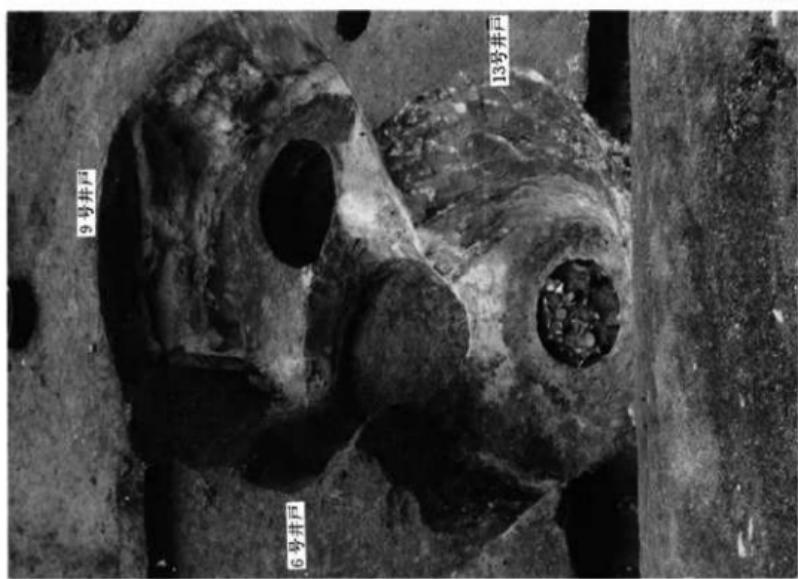
2. 109号土塚（西より）



1. 123号土壤粘土貼り状況（北西より）



2. 123号土壤粘土除去後（南より）



1. 6号、9号、13号井戸切り合ひ状況（北東より）



2. 13号井戸出土物



3. 13号井戸完掘後



1. 21号井戸・38号・39号土壤遠景（北より）



2. 21号井戸完掘状況（北より）



1. 21号井口、38号土壤遺物出土状況（北より）



2. 21号井戸質地鉄绘文盤出土状況



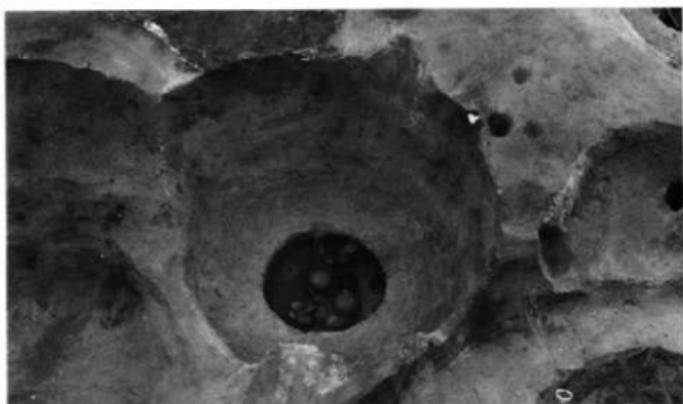
3. 38号土壤遺物出土状況（南西より）



1. 27号井戸検出状況（南東より）



2. 27号井戸完掘後（南西より）



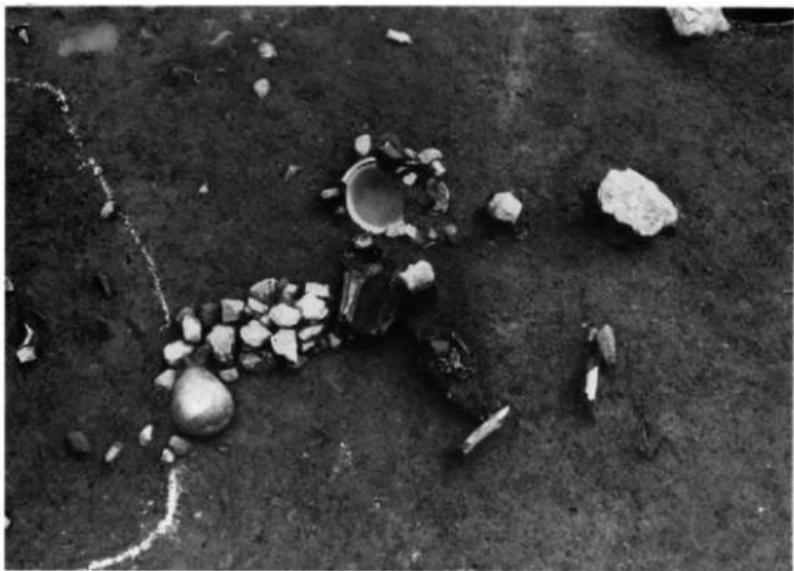
1. 47号井戸（南西より）



2. 48号井戸全景（東より）



3. 48号井戸遺物出土状況（東より）



1. 1号集骨遺構全景（西より）



2. 1号集骨遺構 イルカ頭骨出土状況（西より）

都市計画道路博多駅築港線関係
埋蔵文化財調査報告 I

博 多

1988(昭和63)年3月31日

発 行 福岡市教育委員会
福岡市中央区大名1丁目7-23

印 刷 有限会社 松古堂印刷
〒819-03 福岡市西区舞鶴寺407

